

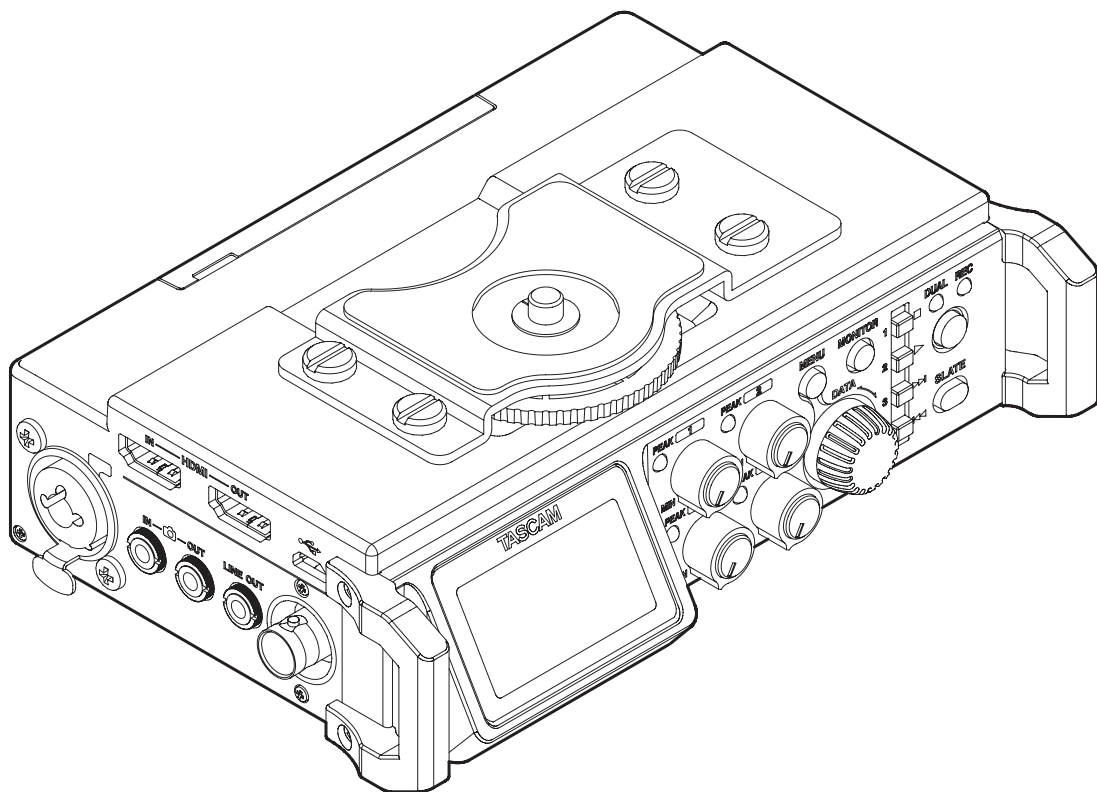
TASCAM

D01276501C

DR-701D

Linear PCM Recorder for DSLR

リファレンスマニュアル



HDMI[®]
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

BLACK
PROCESSOR
by
Analog Devices

目次

第1章 はじめに4	ローカットフィルターを設定する.....24
本機の概要.....4	録音形式／ファイルフォーマット／
本書の表記.....4	サンプリング周波数を設定する.....24
商標および著作権に関して.....5	録音するチャンネルを設定する.....25
SDカードについて.....5	MIXチャンネルの録音設定.....25
取り扱い上の注意.....5	録音する (MONO / STEREO / POLY (6ch) 録音).....25
録音を開始する.....25	FILE TYPEがMONOの場合のファイル名.....25
FILE TYPEがSTEREOの場合のファイル名.....25	POLY (6ch) 録音時のファイル名.....25
録音中にファイルを切り換えて	録音中に自動的にファイルインクリメントする.....26
録音を続ける (ファイルインクリメント).....26	録音中に手でファイルインクリメントする.....26
録音中に自動でファイルインクリメントする.....26	異なる入力レベルで同時に
2系統の録音をする (DUAL REC).....26	デュアル録音の設定をする.....26
デュアル録音を開始する.....26	デュアル録音時のファイル名.....26
マーク機能を使う.....27	録音中に手でマークを付ける.....27
マークの位置への移動.....27	オートトーン機能を使う.....27
オートトーン機能を設定する.....27	オートトーンやスレートトーンの音量調節機能.....27
オシレーターを使う.....27	スレートトーンを挿入する.....28
スレートトーンを挿入する.....28	スレートトーン挿入位置への移動.....28
タイムコードを入力し、	録音開始時間をファイルに記録する.....28
録音開始時間をファイルに記録する.....28	タイムコードを取得する入力先を設定する.....29
タイムコードを取得する入力先を設定する.....29	パワーオフジェネレーター機能を設定する.....29
タイムコードカウンターを確認する.....29	HDMI出力の音声に本体の音声を出力する.....29
HDMI出力の音声に本体の音声を出力する.....29	HDMI出力に各入力チャンネルの音声を出力する.....29
HDMI出力にMIXの音声を出力する.....29	録音時間について.....30
録音時間について.....30	
第2章 各部の名称と働き6	第5章 ファイルやフォルダーの操作 (ブラウズ画面)31
フロントパネル.....6	ブラウズ画面内のナビゲーション.....31
リアパネル.....6	ブラウズ画面内のアイコン表示.....31
左サイドパネル.....7	ファイル操作.....31
右サイドパネル.....8	フォルダー操作.....32
トップパネル.....8	新しいフォルダーを作る.....32
ボトムパネル.....9	メニュー画面のMEDIAページを使って作成する.....32
ホーム画面.....9	ブラウズ画面のNEW FOLDERを使って作成する.....32
メニューの構成.....10	
メニュー画面の基本操作.....12	第6章 再生33
メニュー操作の手順.....12	再生する.....33
操作の基本.....12	一時停止する.....33
	停止する.....33
	早戻し／早送りをする (サーチ).....33
	再生位置をジャンプする.....33
	デュアル録音したファイルの再生.....33
第3章 準備13	第7章 ミキサー34
電源の準備.....13	ミキサーを設定する.....34
電源について.....13	MSマイクを使う.....34
単3形電池で使用する.....13	音の広がり具合を調節する.....34
ACアダプターで使用する (別売).....13	GANG動作モードの設定.....34
外付けバッテリーパックで使用する (別売).....13	
USBバスパワーで使用する.....14	
電源をオンにする／オフ (スタンバイ状態) にする.....14	
電源をオンにする.....14	
電源をオフ (スタンバイ状態) にする.....14	
レジューム機能.....14	
日時を設定する.....15	
SDカードを挿入する／取り出す.....15	
挿入する.....15	
取り出す.....15	
SDカードのライトプロテクトスイッチについて.....15	
SDカードを使えるようにする.....16	
カメラと接続する.....16	
入力の設定をする.....17	
内蔵ステレオマイクで録音する.....17	
マイクを接続する.....17	
外部機器から録音する (LINE IN).....17	
タイムコードジェネレーターと接続する.....17	
モニター用機器を接続する.....18	
再生の音量を調節する.....18	
モニターについて.....19	
モニターを選択する.....19	
トップパネルのアクセサリーシューを使う.....19	
第4章 録音20	
ファイルの保存先を設定する.....20	
録音する入力ソースを設定する.....20	
入力レベルを調節する.....20	
各マイクの距離を補正する.....21	
各チャンネルの位相反転機能の設定.....21	
マイクで使用する電源を設定する.....22	
ファントム電源を設定する.....22	
ファントム電源の電圧値の設定.....22	
プラグインパワーの設定.....23	
リミッター機能を設定する.....23	
ALC (オートレベルコントロール) 機能を設定する.....24	

第8章 パソコンと接続する	35
パソコンへファイルを取り出す.....	35
パソコンからファイルを取り込む.....	35
パソコンとの接続を解除する.....	35
第9章 各種設定および情報表示	36
ファイル名の形式を設定する.....	36
文字 (WORD) の設定.....	36
数字 (COUNT) の初期化設定.....	36
SDカードをフォーマットする.....	36
ディスプレイのコントラスト調節.....	37
ピークホールド表示の設定.....	37
トリム操作のミュート設定.....	37
電源管理の設定.....	37
電池の種類の設定.....	37
電源のオートパワーセーブ機能の設定.....	37
バックライトの設定.....	37
出荷時の設定に戻す.....	37
情報を見る (INFORMATION).....	38
ファイル情報ページ (PROJECT).....	38
カード情報ページ (CARD).....	38
システム情報ページ (SYSTEM).....	38
第10章 REMOTE端子を使う	39
フットスイッチを使う (TASCAM RC-3F).....	39
フットスイッチを設定する.....	39
フットスイッチを使う.....	39
リモコンを使う (TASCAM RC-10).....	39
リモコンを設定する.....	39
リモコンを使う.....	39
第11章 メッセージ	40
第12章 トラブルシューティング	41
第13章 仕様	42
定格.....	42
入出力定格.....	42
アナログオーディオ入出力定格.....	42
コントロール入出力定格.....	42
オーディオ性能.....	43
一般.....	43
寸法図.....	44

第1章 はじめに

本機の概要

本機は、デジタル一眼レフカメラおよびビデオカメラでの動画撮影に適した、高品質な録音環境を提供するオーディオ出力と機能を搭載したオーディオレコーダーです。

- 記録メディアにSD / SDHC / SDXCカードを採用したコンパクトサイズのオーディオレコーダー
- TASCAMのHDDA (High Definition Discrete Architecture) マイクプリアンプ搭載による高音質録音
- 4チャンネルをステレオミックスして出力可能
- 全てのチャンネルは、それぞれ独立した録音レベル調整が可能
- 複数のトリムのレベル差を保持して連動して操作するGANGトリム機能に対応
- HDMI接続でカメラとクロック同期が可能
- HDMIタイムコードのレックトリガーに対応
- HDMIタイムコードおよびLTCタイムコード入力に対応 (BWFのTime Referenceにタイムコードの時間を埋め込みます)
- HDMI入力の映像に本機で収録した音声を加えてHDMIに出力することが可能
- 異なるレベルで2系統の録音を同時に行うことができるデュアル録音機能を搭載
- 最大4チャンネル録音と同時にMIXの録音が可能 (4+2)
- 44.1k/48k/96k/192kHz、16/24ビットのリニアPCM (WAV形式) 録音が可能
- WAV録音形式としてBWF (Broadcast Wave Format) に対応
- ファントム電源付きXLRマイク (24V、48V) / LINE入力、TRSマイク / LINE入力を装備 (排他使用)、LINE入力時は+24dBu入力対応
- プラグインパワーマイク用電源対応のステレオミニジャック入力を装備ビデオマイクなどの高出力マイク入力対応 (最大入力レベル+10dBV)
- 編集時、動画ファイルとの同期に便利な、スレートトーン挿入機能 (自動/マニュアル)
- 本機からの高音質な音声をデジタル一眼レフカメラで録音可能にするカメラ出力端子を装備
- デジタル一眼レフカメラからの音声を本機でモニターするときに便利なカメラ入力端子を装備
- MSマイクに対応したデコード機能を搭載
- 録音を継続したまま、任意の位置でファイルを更新できるファイルインクリメント機能
- 入力信号の音量に合わせて、録音レベルを制御するオートレベルコントロール (ALC) に対応
- 入力レベルが大きすぎる場合に、その部分だけ適度なレベルに自動的に調節するマルチバンドリミッターを搭載
- 低域ノイズの低減に便利なローカットフィルター
- 2系統の入力の距離差を解消するディレイ機能
- スレートトーンを入力した位置へ移動するトーンサーチ機能
- 録音時に任意の位置にマーク設定が可能
- ファイル名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 電源をオフ (スタンバイ状態) にする前の再生位置を記憶しておくリジューム機能
- ϕ 3.5mm (1/8") ライン出力/ヘッドホン出力端子

- 128 x 64のバックライト付きドットマトリックスタイプLCD
- Micro-Bタイプ USB2.0端子
- 単3形電池4本、ACアダプター (別売: TASCAM PS-P515U)、外付けバッテリーパック (別売: TASCAM BP-6AA) またはUSBバスパワー供給
- 三脚取り付け穴 (ボトム) とコインで脱着可能なデジタル一眼レフカメラ設置用スクリューアタッチメント (トップ) を装備
- 専用リモコン端子を装備 (別売のRC-10、RC-3Fに対応)
- 誤操作を防止するHOLDスイッチを装備
- 操作面の保護のためのガードを前面左右に装備

本製品はアナログ・デバイス社製16/32ビット Blackfin®組み込みプロセッサを搭載し製品のデジタル信号処理と制御を行っています。
このBlackfin®プロセッサを搭載することにより製品の高性能化・省電力化を実現しています。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン/端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“ON”のように“_”で括って表記します。
- 「SD/SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《OK》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAM is a trademark of TEAC CORPORATION, registered in the U.S. and other countries.
- The terms HDMI and HDMI High-Definition Multimedia Interface, and the HDMI Logo are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing LLC in United States and other countries.
- SDXC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.



- Blackfin® and the Blackfin logo are registered trademarks of Analog Devices, Inc.
- Other company names, product names and logos in this document are the trademarks or registered trademarks of their respective owners.

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。使用できるカードは、64MB～2GBのSDカード、4GB～32GBのSDHCカード、および48GB～128GBのSDXCカードです。

TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

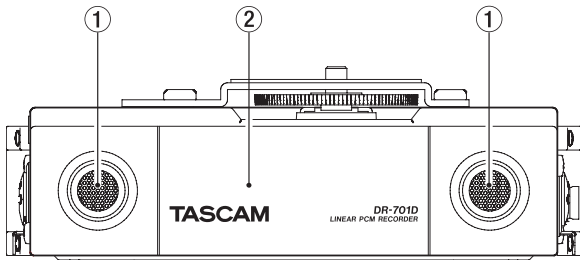
取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。SDカードの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

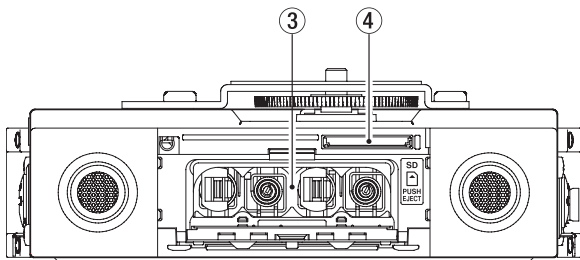
- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

第2章 各部の名称と働き

フロントパネル

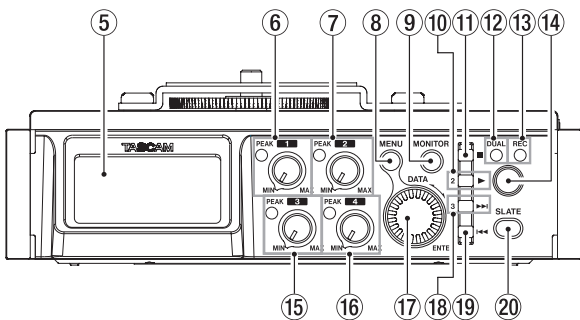


- ① 内蔵ステレオマイク
エレクトレットコンデンサータイプの無指向性ステレオマイクです。
- ② フロントカバー
電池ケースとSDカードスロットのカバーです。



- ③ 電池ケース
本機の電源になる電池（単3形電池、4本）を収納するケースです。（→ 13ページ「単3形電池で使用する」）
- ④ SDカードスロット
SDカードを挿入するカードスロットです。

リアパネル



- ⑤ ディスプレー
各種情報を表示します。
- ⑥ 1つまみ / PEAKインジケーター
1つまみを使って、左サイドパネルのIN 1端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、1のPEAKインジケーターが点灯します。
マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 20ページ「入力レベルを調節する」）

- ⑦ 2つまみ / PEAKインジケーター
2つまみを使って、左サイドパネルのIN 2端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、2のPEAKインジケーターが点灯します。
マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 20ページ「入力レベルを調節する」）
- ⑧ MENUボタン
ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、メニュー画面を表示します。
各種設定画面表示中に押すとメニュー階層を1段階戻り、メニュー表示中に押すとホーム画面に戻ります。
- ⑨ MONITORボタン
再生時以外にこのボタンを押すと、モニター音を選択するメニューを表示します。
- ⑩ 2/▶ ボタン
ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。
ブラウズ画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。
メニューページの“CH1” / “CH2” / “CH3” / “CH4”表示がある項目でこのボタンを押すと、チャンネル2の設定内容にカーソルが移動します。
- ⑪ 1/■ ボタン
再生中にこのボタンを押すと再生を停止し、その再生ファイルの先頭に戻ります。
録音中にこのボタンを押すと、録音を停止します。
メニューページの“CH1” / “CH2” / “CH3” / “CH4”表示がある項目でこのボタンを押すと、チャンネル1の設定内容にカーソルが移動します。
各種設定画面の操作では、確認のポップアップメッセージに対して「NO」と答えるときに使います。
- ⑫ DUALインジケーター
デュアル録音モード中に、橙色に点灯します。
- ⑬ RECインジケーター
録音中に、赤色に点灯します。
- ⑭ 録音(●)ボタン
停止中に押すと、録音を開始します。
- ⑮ 3つまみ / PEAKインジケーター
3つまみを使って、左サイドパネルのIN 3端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、3のPEAKインジケーターが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 20ページ「入力レベルを調節する」）
- ⑯ 4つまみ / PEAKインジケーター
4つまみを使って、右サイドパネルのIN 4端子からの入力レベルを調節します。
入力レベルが大きくなって歪む直前になると、4のPEAKインジケーターが点灯します。マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。（→ 20ページ「入力レベルを調節する」）

⑰ DATAダイヤル (ENTER)

このダイヤルを回して、各種設定画面での項目の選択や値の変更を行います。

このダイヤルを押して、各種設定画面で選択されている項目を決定する、または確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。

録音中にこのダイヤルを押すと、手でマークを付けることができます。(→ 27ページ「マーク機能を使う」)

⑱ 3/▶▶ボタン

停止中または再生中にこのボタンを押すと次のマークに移動します。マークがない場合は、次のファイルにスキップします。

押し続けると、早送りサーチを行います。

メニューページの「CH1」/「CH2」/「CH3」/「CH4」表示がある項目でこのボタンを押すと、チャンネル3の設定内容にカーソルが移動します。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを右に移動します。ファイルが選択されているときは、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。

⑲ 4/◀◀ボタン

再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこの前のマークに移動します。マークがない場合は、再生ファイルの先頭に戻ります。

ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。

押し続けると、早戻しサーチを行います。

メニューページの「CH1」/「CH2」/「CH3」/「CH4」表示がある項目でこのボタンを押すと、チャンネル4の設定内容にカーソルが移動します。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを左に移動します。

⑳ SLATEボタン

録音中/再生中/モニター中にこのボタンを長押しすると、スレートトーンを生成します。(→ 28ページ「スレートトーンを挿入する」)

㉑ HOLD / ◀ / | スイッチ

下側(矢印の方向)にスライドすることで、電源のオン/オフの切り換えを行います。

上側にセットするとホールド機能が働きます。ホールド中は、全てのボタン操作を受け付けません。

㉒ PHONESボリューム

PHONES端子から出力される音量を調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESボリュームの音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

㉓ PHONES端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオヘッドホンを接続するステレオミニジャックです。

PHONESボリュームで音量を調節します。

㉔ EXT IN 1/2端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオミニジャックのマイク入力または外部入力端子です。

プラグインパワーに対応しています。

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

㉕ REMOTE端子 (φ2.5mm TRSジャック)

別売の専用フットスイッチ (TASCAM RC-3F) または専用ワイヤードリモコン (TASCAM RC-10) を接続します。リモコンによる再生、停止などの操作が可能になります。(→ 39ページ「第10章 REMOTE端子を使う」)

㉖ IN 1端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

㉗ IN 2端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

㉘ IN 3端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

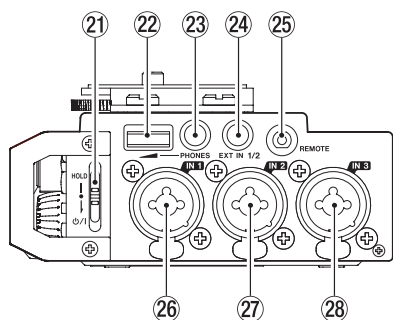
XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

TRS (Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

注意

- これらのIN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- ファントム電源をオンにした状態で、IN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子にマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源をオンにすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご使用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。

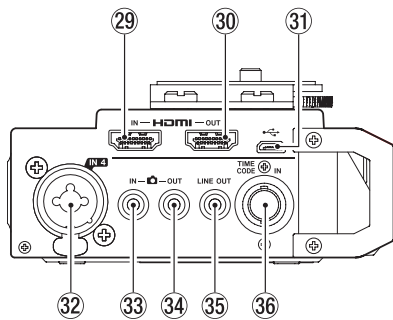
左サイドパネル



メモ

外部機器のプラグを接続するときや使用中には、プラグに無理な力を加えないでください。特に標準→ミニ変換プラグを使う場合は思わぬ力が加わり、機器を破損してしまう恐れがありますのでご注意ください。

右サイドパネル



メモ

外部機器のプラグを接続するときや使用中には、プラグに無理な力を加えないでください。特に標準→ミニ変換プラグを使う場合は思わぬ力が加わり、機器を破損してしまう恐れがありますのでご注意ください。

29 HDMI IN端子

デジタル一眼レフカメラなどのHDMIソース機器と接続します。

30 HDMI OUT端子

HDMI対応モニター機器などのHDMIシンク機器と接続します。

31 Micro USB端子

付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。(→ 35ページ「第8章 パソコンと接続する」)
付属のUSBケーブルまたは別売の専用ACアダプター(TASCAM PS-P515U)で電源を供給することができます。

注意

パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

32 IN 4端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

33 IN端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオミニジャックケーブルを使って、カメラの音声出力端子に接続します。

カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。(→ 16ページ「カメラと接続する」)

34 OUT端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

ステレオミニジャックケーブルを使って、カメラの外部入力端子と接続します。

この端子から出力される音量は、“OUTPUT LEVEL” ページの“CAMERA”項目で調節します。(→ 18ページ「再生の音量を調節する」)

カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。(→ 16ページ「カメラと接続する」)

35 LINE OUT端子 (φ3.5mm ステレオミニジャック)

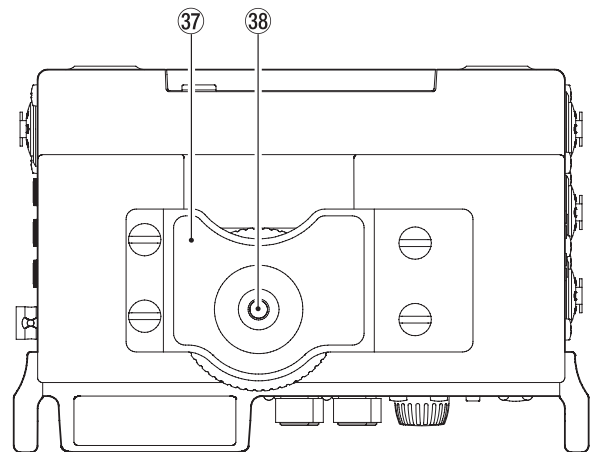
ステレオミニジャックケーブルを使って、外部機器のライン入力端子と接続します。

この端子から出力される音量は、“OUTPUT LEVEL” ページの“LINE”項目で調節します。(→ 18ページ「再生の音量を調節する」)

36 TIME CODE IN端子

BNCケーブルを使って、タイムコード出力端子を持つ外部機器と接続します。(→ 17ページ「タイムコードジェネレーターと接続する」)

トップパネル



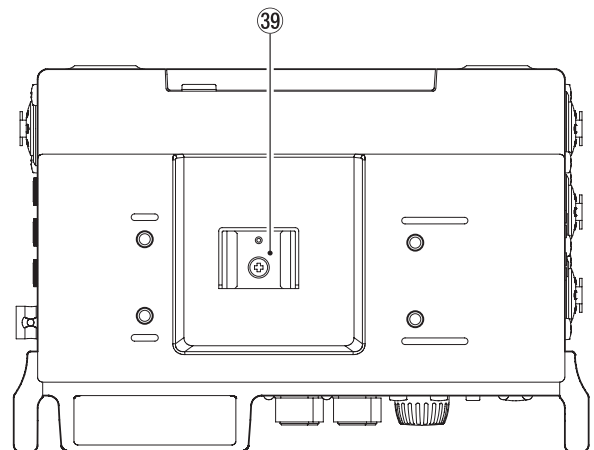
37 デジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケット

デジタル一眼レフカメラ取り付け用ネジを使用するためのブラケットです(本体取り付け済み)。

ブラケットを使用しない場合は、4本の固定ネジをコインなどで取り外すことができます。

38 デジタル一眼レフカメラ取り付け用ネジ (1/4インチ)

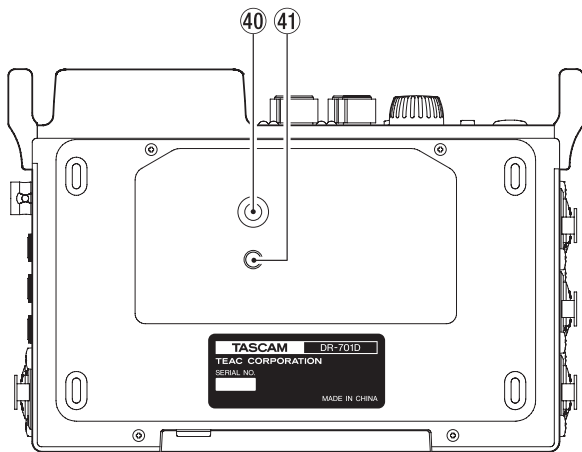
本機をカメラ下部やカメラ取り付け用ネジに対応したラックなどに取り付けるときに使用します。



39 アクセサリーシュー

付属のデジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケットを外すと、アクセサリーシューを使用することができます。

ボトムパネル



④① 三脚取り付け用穴 (1/4インチ)

本体に三脚を取り付けることができます。

注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のネジを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚またはマイクスタンドを水平な場所に置いてください。
- 三脚によっては、ネジの規格の違いにより、直接取り付けられない場合があります。その場合は、市販の変換アダプターをご使用ください。

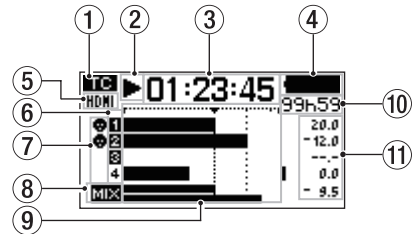
④① ビデオボス挿入穴 (VIDEO PIN)

ビデオボス付きの三脚を使用時にビデオボスを、この穴に合わせて三脚に取り付けします。

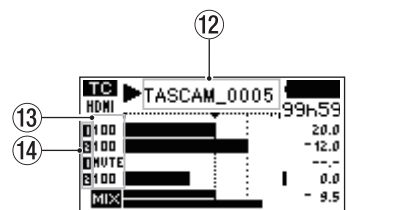
ホーム画面

本機のホーム画面には、カウンター表示モードとトリム表示モードがあります。

ホーム画面表示中にDATAダイヤルを回すと、表示内容が切り換わります。



[ホーム画面カウンター表示モード]



[ホーム画面トリム表示モード]

① タイムコード受信状態表示

タイムコードの受信状態を表示します。(→ 28ページ「タイムコードを入力し、録音開始時間をファイルに記録する」)

非表示: タイムコード未受信

TC : タイムコード受信中

② レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
	一時停止中
▶	再生中
▶▶	早送り中
◀◀	早戻し中
▶▶▶	次のファイルの先頭にスキップ
◀◀◀	現在または手前のファイルの先頭にスキップ
●	録音中

③ 経過時間表示

現在のファイルの経過時間 (時:分:秒) を表示します。

④ 電源供給の状態表示

電池供給時は、電池アイコンを表示します。

電池残量に応じて、25段階で表示されます (“” → “” → “”)。

目盛り表示がなくなると “” が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフ (スタンバイ状態) になります。

別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) 使用時およびUSBバスパワー供給時は、“” を表示します。バスパワー供給時でも、本体の電池残量を8段階表示で確認できます。

メモ

残量がなくなる前でも録音など消費電力の大きい動作を行おうとすると、“Battery Low” の警告のポップアップメッセージが出ることがあります。

第2章 各部の名称と働き

⑤ HDMI接続状況表示

HDMIの接続状態を表示します。

非表示：HDMI未接続

HDMI : HDMI接続

HDMI : HDMI接続 (クロック同期)

⑥ 録音の設定状態表示

録音のオン/オフ状態を表示します。(→ 25ページ「録音するチャンネルを設定する」)

1 2 3 4 : 録音の設定オフ

1 2 3 4 : 録音の設定オン

⑦ ファントム電源の設定状態表示

ファントム電源のオン/オフ状態を表示します。(→ 22ページ「ファントム電源を設定する」)

非表示：ファントム電源オフ

+ : ファントム電源オン

⑧ MIX録音の設定状態表示

MIX : MIX録音の設定オフ

MIX : MIX録音の設定オン

⑨ レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。

目盛りには、-20dB (“▼” マーク付き) と -12dBの位置に
入力レベル調整時の目印となる点線が表示されています。

⑩ 残量時間表示

再生中は、現在のファイルの残量時間 (時:分) を表示します。
停止中または録音中は、設定した録音モード/サンプリング周
波数/録音フォーマットにおけるSDカードの残時間 (時:分)
を表示します。

⑪ ピーク値のデシベル (dB) 表示

再生中は、一定時間ごとに、その期間の再生レベルの最大値を、
チャンネル別にデシベル表示します。

録音中は、入力レベルのピーク値をデシベル表示します。

⑫ プロジェクト名表示

録音中/再生中のプロジェクト名を表示します。

プロジェクトとは、録音/再生するファイルの一群のことをさ
します。

⑬ トリム値表示

1 / 2 / 3 / 4つまみの設定状態を表示します。

⑭ GANG状態表示

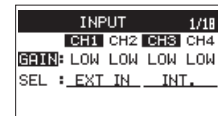
GANG動作させる1 / 2 / 3 / 4つまみの状態を表示します。
(→ 34ページ「GANG動作モードの設定」)

1 : GANGグループ設定1に設定

2 : GANGグループ設定2に設定

メニューの構成

MENUボタンを押すと、最初はメニュー画面の“INPUT” ページが
表示されます。次回以降は、前回表示したページが表示されます。



メニュー画面は、メニュー項目の種類ごとに18のページで構成さ
れています。

ページ名	内容	
1	INPUT	入力の設定を行います。
2	MIXER	ミキサーの設定を行います。
3	PHASE/DELAY	入力の位相の設定とマイク距離 の補正を行います。
4	LEVEL CONTROL	入力レベルの設定を行います。
5	TRIM GANG	GANG動作の設定を行います。
6	OUTPUT LEVEL	出力レベルの設定を行います。
7	MIC POWER	マイクパワーの設定を行います。
8	RECORD	録音チャンネルの設定を行いま す。
9	REC SETTING	録音の設定を行います。
10	FILE	ファイルの設定を行います。
11	MEDIA	メディアの設定を行います。
12	TIME CODE	タイムコードの設定を行います。
13	SLATE TONE	スレートトーンの設定を行いま す。
14	HDMI AUDIO ASSIGN	HDMI出力音声のアサイン設定 を行います。
15	METER/TRIM	メーターとトリムの設定を行いま す。
16	POWER MANAGEMENT	電源管理の設定を行います。
17	REMOTE	リモコンの設定を行います。
18	SYSTEM	システムの設定を行います。

各メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
INPUTページ		
GAIN	入力ゲインを設定。	→ 20ページ
SEL	入力ソースを選択。	→ 20ページ
MIXERページ		
LVL.	レベル調節。	
PAN	L / Rのバランス調節。 MSモード時のM/Sバランス調節。	→ 34ページ
MS	MSデコードのオン/オフ設定。	→ 34ページ
PHASE/DELAYページ		
PHAS	入力の位相を設定。	→ 21ページ
DELY	マイク距離の補正。	→ 21ページ
LEVEL CONTROLページ		
LIM.	リミッター機能の設定。	→ 23ページ
AUTO	オートレベルコントロールの設定。	→ 24ページ
LCF	ローカットフィルターの設定。	→ 24ページ
TRIM GANGページ		
GRP1	GANG動作のグループ1の設定。	→ 34ページ
GRP2	GANG動作のグループ2の設定。	
OUTPUT LEVELページ		
CAMERA	カメラ出力のレベル設定。	→ 18ページ
LINE	ライン出力のレベル設定。	
MIC POWERページ		
PHAN	ファントム電源のオン/オフ設定。	→ 22ページ
VOLTAGE	ファントム電源の電圧値の設定。	→ 22ページ
PLUGIN	プラグインパワー機能の設定。	→ 23ページ
RECORDページ		
SEL	録音チャンネルの設定。	→ 25ページ
MIX	MIX録音の設定。	→ 25ページ
DUAL	デュアル録音チャンネルの設定とレベルの調整。	→ 26ページ
REC SETTINGページ		
FILE TYPE	録音形式の設定。	→ 24ページ
FORMAT	録音ファイルフォーマットの設定。	
SAMPLE	サンプリング周波数の設定。	
FILEページ		
NAME TYPE	ファイル名の形式の設定。	→ 36ページ
WORD	ファイル名の文字列設定。	
COUNT INIT	ファイル番号の初期化。	
MEDIAページ		
BROWSE	SDカード内のフォルダーおよびファイルの操作。	→ 31ページ → 32ページ
NEW FOLDER	新規フォルダーの作成設定。	→ 32ページ

メニュー項目	機能	参照ページ
FORMAT	SDカードのフォーマット。	→ 36ページ
TIME CODEページ		
SELECT	タイムコードソースの設定。	→ 28ページ
POWER OFF GEN	パワーオフジェネレーターのオン/オフ設定。	→ 29ページ
SLATE TONEページ		
AUTO	自動スレートトーンの設定。	→ 27ページ
VOLUME	スレートトーンの音量設定。	→ 27ページ
OSCILLATOR	オシレーターの実行。	→ 27ページ
HDMI AUDIO ASSIGNページ		
SEL	HDMI出力のチャンネル設定。	→ 29ページ
MIX	HDMI出力のMIX設定。	→ 29ページ
METER/TRIMページ		
PEAK HOLD	ピークホールド時間の設定。	→ 37ページ
TRIM MIN	トリム操作のミュート設定。	→ 37ページ
POWER MANAGEMENTページ		
BATTERY TYPE	電池の種類の設定。	→ 37ページ
AUTO PWR SAVE	電源の自動オフ設定。	→ 37ページ
BACKLIGHT	バックライトの消灯時間設定。	→ 37ページ
REMOTEページ		
CONTROLLER	リモコンの設定。	→ 39ページ
MODE	リモコンのモード設定。	
SYSTEMページ		
INITIALIZE	初期設定状態に戻す。	→ 37ページ
DATE/TIME	日時を設定。	→ 15ページ
INFORMATION	各種情報の表示。	→ 38ページ

注意

- 録音中は、メニュー画面の“INPUT”ページから“OUTPUT LEVEL”ページまでを表示します。メニュー画面の“MIC POWER”ページ以降のページは表示されません。
- 各メニュー項目で設定した内容は、電源をオフにしても保持されます。

第2章 各部の名称と働き

メニュー画面の基本操作

メニュー画面の各メニューページ操作は、以下の操作で行います。

項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：

DATAダイヤルを回します。

メモ

DATAダイヤルを回して、メニュー画面“INPUT”ページの“GAIN”項目から“SYSTEM”ページの“INFORMATION”項目まで、1項目ごとに上下させることができます。

選択した項目を確定するには：

DATAダイヤルを押します。

画面に表示されていないサブ画面に進むには：

DATAダイヤルを押します。

メニュー階層を1つ戻るには：

MENUボタンを押します。

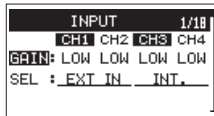
メニューモード中、ホーム画面に戻るには：

MENUボタンを押します。

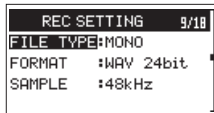
メニュー操作の手順

録音の設定を変更することを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。

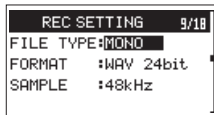


2. DATAダイヤルを回して、各種メニューページの設定する項目を選択（反転表示）します。



["REC SETTINGS" ページ "FILE TYPE" 項目選択時]

3. DATAダイヤルを押すと、設定内容にカーソルが移動します（反転表示）。



メモ

“CH1” / “CH2” / “CH3” / “CH4” 表示のある設定項目では、DATAダイヤルを押すたびにチャンネル1 → チャンネル2 → チャンネル3 → チャンネル4の順番で設定内容にカーソルが移動します。または、これらのボタンは数字のチャンネルにカーソルがジャンプします。

4. DATAダイヤルを回して、設定を変更します。
5. 別の項目を設定する場合は、DATAダイヤルまたはMENUボタンを押します。
設定項目選択状態に戻りますので、DATAダイヤルを回して設定したい項目を選択（反転表示）します。
6. 必要に応じて手順3. ~ 6.を繰り返し、各項目を設定します。
7. MENUボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

メニュー画面を呼び出します。

1/■ボタン

確認のポップアップメッセージに対して「NO」を選択するときにも使用します。

DATAダイヤル

DATAダイヤルを回して、各種設定画面での項目の選択や値の変更を行います。また、ファイルの再生位置の移動にも使用します。

DATAダイヤルを押して、各種設定画面で選択されている項目を決定する、または確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。

3/▶▶ボタン

ブラウズ画面で階層を進むときに使用します。

4/◀◀ボタン

ブラウズ画面で階層を戻るときに使用します。

電源の準備

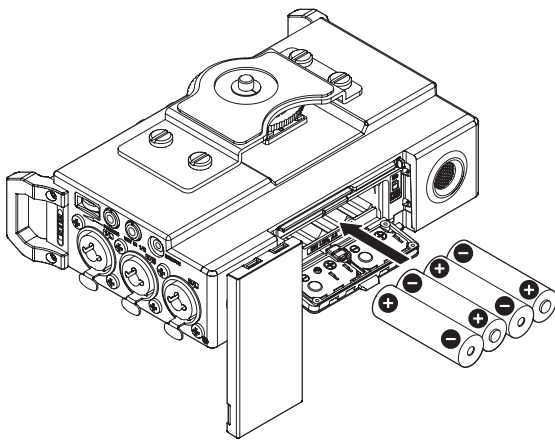
電源について

本機は、単3形電池4本、付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）接続、別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）接続）、本機に電源を供給します。

本機は、単3形アルカリ乾電池および単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム乾電池も使用することができます。

単3形電池で使用する

本機のフロントカバーと電池ケース蓋を開き、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて単3形電池を4本セットして、電池ケース蓋とフロントカバーを閉じます。



単3形電池で使用する時、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（→37ページ「電池の種類の設定」）

注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。

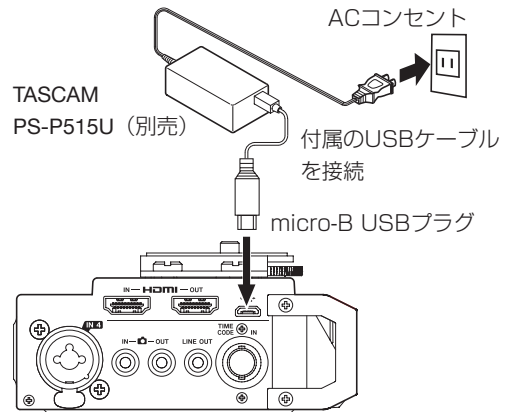
メモ

コンデンサーマイクヘファントム電源を供給した場合は、電力を多く消費します。単3形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素電池またはリチウム乾電池）で供給しているときに、コンデンサーマイクを使用すると稼働時間が短くなります。

長時間稼働させたい場合は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）や外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を使って、本機に電源を供給してご使用ください。

ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。



メモ

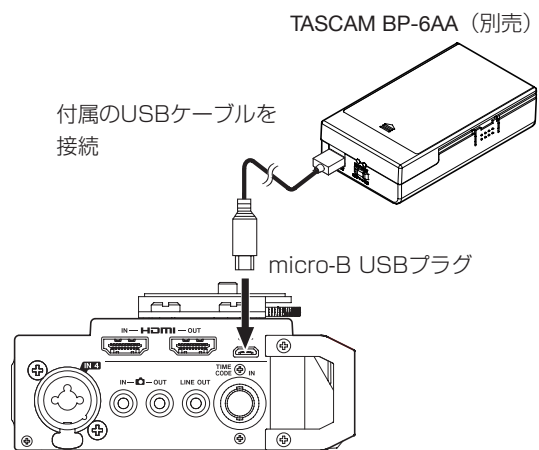
電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

注意

- 必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

外付けバッテリーパックで使用する（別売）

図のように、別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。詳しい使い方は、BP-6AAの取扱説明書をご覧ください。



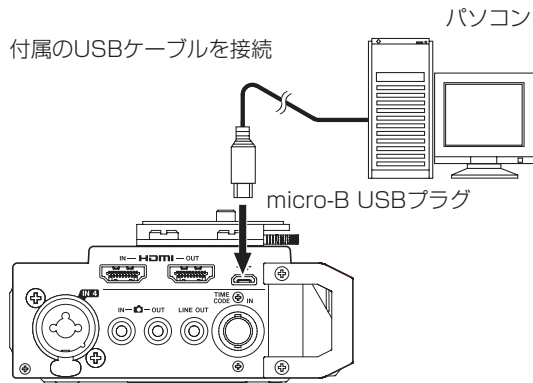
注意

BP-6AAの電池残量は、本機からは検知できません。本機に電池を内蔵しないでBP-6AAだけで動作させていると、BP-6AAの電池残量がなくなったときに突然動作が停止する場合があります。

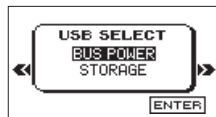
トラブルを防止するために、本機には残量が十分にある電池を内蔵してからBP-6AAを接続して使用するようになしてください。

USBバスパワーで使用する

図のように、パソコンと本機を付属のUSBケーブルを使って接続します。



電源がオンのときにUSB接続する、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、またはパソコンとUSB接続するかを選択する“USB SELECT”画面が表示されます。



DATAダイヤル回して“BUS POWER”を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと電源がUSB端子から供給され、ホーム画面が表示されます。

メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます（USBバスパワー優先）。

注意

- パソコンのUSBバスパワーの仕様によっては、USBケーブルで接続しても本機が動作しないことがあります。その場合は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。
- 本機は、パソコン本体の省電力機能、スリープ機能などには対応していません。パソコンからのUSBバスパワーで本機を使用する場合は、必ずそれらの機能をオフにしてください。

電源をオンにする／オフ（スタンバイ状態）にする

注意

- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）使用時、およびパソコンとのUSBバスパワー接続で供給しているときは、電源をオフにするとスタンバイ状態になります。
- 本機の電源のオン／オフ（スタンバイ状態）は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ（スタンバイ状態）時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源をオンにする

電源がオフ（スタンバイ状態）時に、**HOLD / 冫 / |**スイッチを「冫 / |」方向にスライドし、“TASCAM DR-701D”（起動画面）が表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



[起動画面]



[ホーム画面]

注意

初回電源投入時（および電池がない状態でしばらく置いたため内蔵時計がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、日時を設定する“DATE/TIME”画面が表示されます。（→ 15ページ「日時を設定する」）

電源をオフ（スタンバイ状態）にする

電源オン時に、**HOLD / 冫 / |**スイッチを「冫 / |」方向にスライドします。

シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

注意

電源をオフ（スタンバイ状態）にするときは、必ず**HOLD / 冫 / |**スイッチで行ってください。

電源がオンのときに電池を外したり、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）で使用しているときに電源コードを抜いたり、USBバスパワーで使用しているときにUSBケーブルを抜くと録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

レジューム機能

本機は、レジューム機能を搭載しており、電源をオンにしたときに、前回電源をオフ（スタンバイ状態）にしたときの位置（時間）にロケートされます。

電源投入後、**2 / ▶** ボタンを押すと電源をオフ（スタンバイ状態）にした時点のファイルの再生位置（時間）から再生することが可能です。

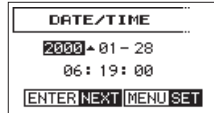
メモ

この内容は、SDカードに記録されているため、カードを入れ換える、またはフォーマットした場合には、レジュームできません。

日時を設定する

本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

1. “SYSTEM” ページの “DATE/TIME” 項目を選択し、“DATE/TIME” 画面を表示します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. DATAダイヤルを回して値を変更してからDATAダイヤルを押して確認すると、カーソルが次の項目へ移動します。「年」→「月」→「日」→「時」→「分」→「秒」を変更すると、カーソルが「年」に戻ります。
3. MENUボタンを押すと確定し、メニュー画面に戻ります。

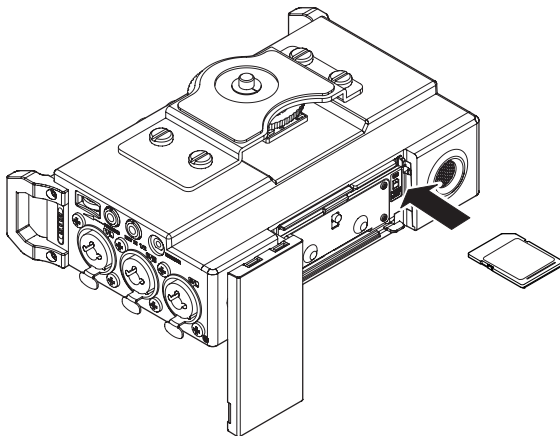
メモ

ここで設定した日付をファイル名に付けることができます。(→ 36ページ「ファイル名の形式を設定する」)

SDカードを挿入する／取り出す

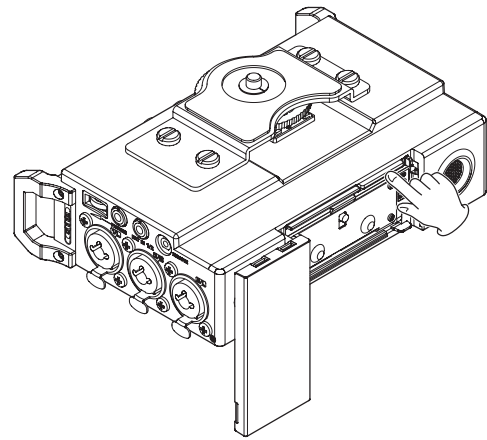
挿入する

1. フロントパネルのフロントカバーを開きます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



取り出す

1. フロントパネルのフロントカバーを開きます。
2. SDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。

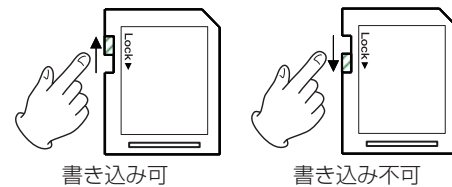


注意

- 録音、再生などカードアクセス中に、本機からSDカードを取り出さないでください。
- パソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り出さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC/SDXC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードのライトプロテクトスイッチについて

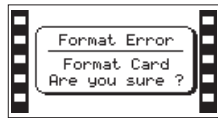
SDカードには、プロテクト(書き込み防止)スイッチが付いています。プロテクトスイッチを [LOCK] の方向へスライドすると、ファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、プロテクト(書き込み防止)スイッチを解除してください。



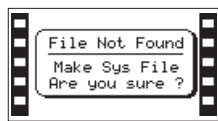
SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機で初期化する必要があります。

1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



[SD / SDHCカードの場合]



[SDXCカードの場合]

3. DATAダイヤルを押すと、初期化を開始します。

注意

フォーマットを行うと、SDカード上のデータは全て消去されます。

4. 初期化が終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。

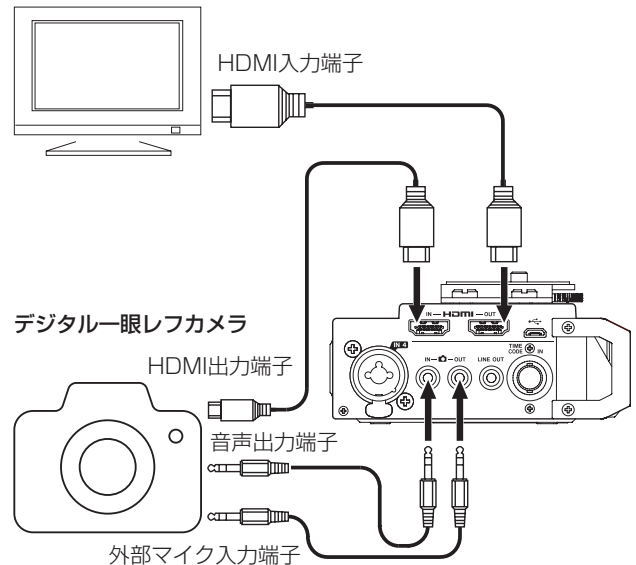
注意

フォーマットは、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で供給しているときに行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

カメラと接続する

本機とカメラと接続するには、以下のように接続することが可能です。

HDMIモニター



本機の音声をカメラで録音したい

右サイドパネルの **OUT** 端子とカメラの外部マイク入力端子を市販のφ3.5mmステレオミニプラグケーブルを使用して接続してください。

カメラからの音声を本機に入力してヘッドホンからモニターしたい

右サイドパネルの **IN** 端子とカメラの音声出力端子を市販のφ3.5mmステレオミニプラグケーブルを使用して接続してください。

カメラとHDMIで接続する

カメラのHDMI出力をHDMI IN端子に接続するとカメラのクロックに同期ができます。また、カメラからのHDMIタイムコードを受信できます。

HDMIモニター・レコーダーと接続する

カメラから入力したHDMIの映像にDR-701Dで収録した音声を加えて、HDMI OUT端子から出力することができます。また、受信したHDMIタイムコードを出力できます。

メモ

- カメラ側の接続端子に関しては、カメラの取扱説明書をご覧ください。
- カメラに出力される音量は、“OUTPUT LEVEL” ページの“CAMERA”項目で調節します。（→ 18ページ「再生の音量を調節する」）
- 本機にカメラをマウントする場合は、トップパネルのカメラ取り付け用ネジでカメラに取り付けます。

入力の設定をする

内蔵ステレオマイクで録音する

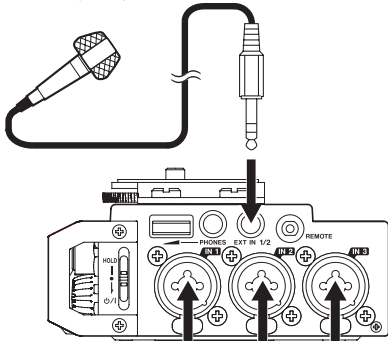
内蔵ステレオマイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

マイクを接続する

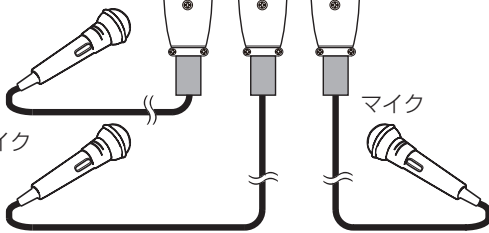
マイクを本機のIN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子に接続します。マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

外部ステレオマイクを接続する場合は、左サイドパネルのEXT IN 1/2端子に接続してください。

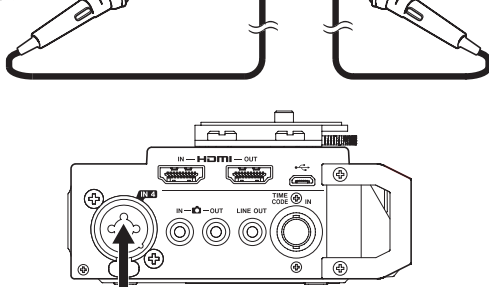
ステレオマイク



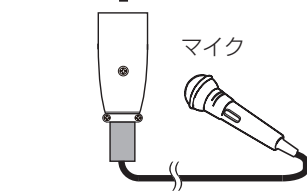
マイク



マイク

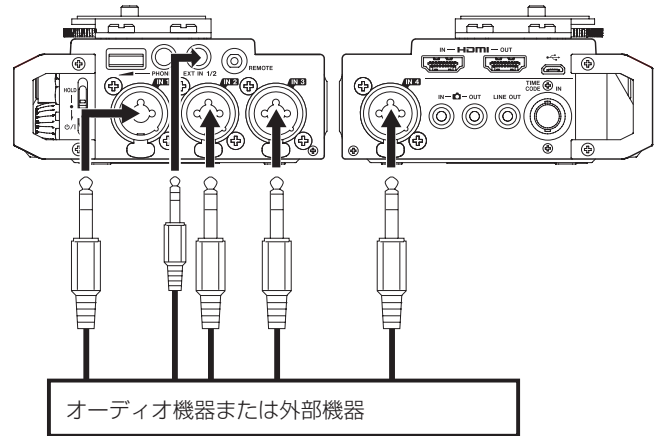


マイク



外部機器から録音する (LINE IN)

ステレオプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器の出力と接続します。

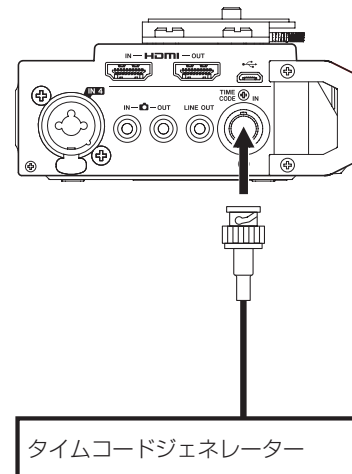


注意

- 本機の入力レベルを調節しても、入力された音が歪んでいる場合は、外部機器の再生音量を小さくしてください。
- 外部機器の出力レベルを調節できないライン出力を接続した場合は、音量が大きい音源などではレベルオーバーとなり、調節できない場合があります。その場合には、レベル調節可能なヘッドホン端子などを接続してください。

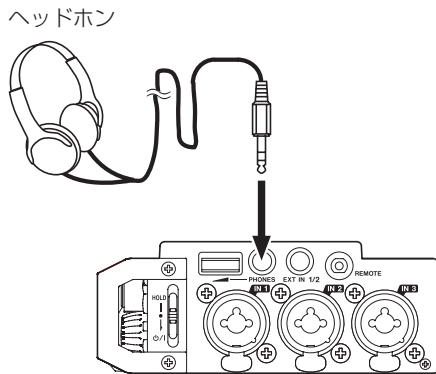
タイムコードジェネレーターと接続する

BNCケーブルを使って、タイムコードジェネレーターを本機のTIMECODE IN端子に接続します。

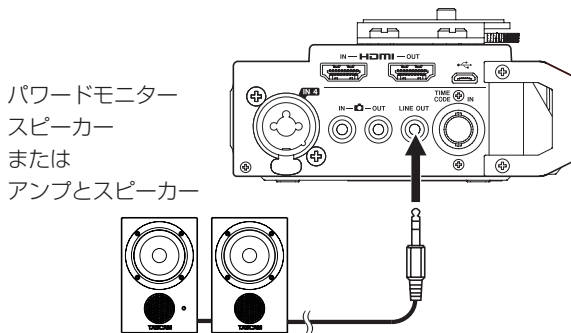


モニター用機器を接続する

ヘッドホンで聴く場合は、PHONES端子にヘッドホンを接続してください。



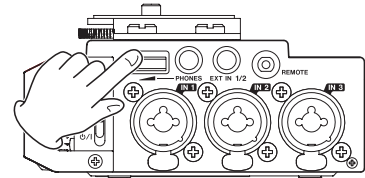
外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、右サイドパネルのLINE OUT端子に外部モニターシステムを接続してください。



再生の音量を調節する

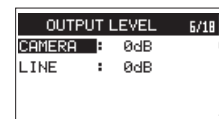
PHONES端子からの出力を調節するには

PHONES端子から出力される音量は、PHONES端子ボリュームで調節します。



📷 OUT端子からの出力を調節するには

1. “OUTPUT LEVEL” ページの “CAMERA” 項目を選択します。
(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



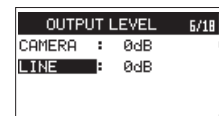
2. 📷 OUT端子からの出力を設定します。
設定値：“-24dB”～“0dB”（初期値）～“+42dB”
3. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

0dBと1dB、12dBと13dB、30dBと31dBの3か所でハードウェアでのゲイン切り換えを行います。ゲイン切り換え前にポップアップメッセージを表示します。そのままDATAダイヤルを回すと継続して設定を変更できますが、ゲイン切り換え時の短い間、出力音声が途切れます。

LINE OUT端子からの出力を調節するには

1. “OUTPUT LEVEL” ページの “LINE” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. LINE OUT端子からの出力を設定します。
設定値：“-12dB”～“0dB”（初期値）～“+12dB”
3. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

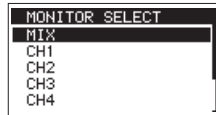
0dBと1dBの間でハードウェアでのゲイン切り換えを行います。ゲイン切り換え前にポップアップメッセージを表示します。そのままDATAダイヤルを回すと継続して設定を変更できますが、ゲイン切り換え時の短い間、出力音声が途切れます。

モニターについて

停止中に各入力音をヘッドホンなどでモニターすることができます。

モニターを選択する

1. ホーム画面で、停止中／一時停止中／録音待機中／録音中に **MONITOR** ボタンを押して、“**MONITOR SELECT**” 画面を表示します。



2. **DATA** ダイヤルを回して、モニターするモニター先を選択（反転表示）します。

選択肢	内容
MIX	ミックス音をステレオでモニターします。
CH1	チャンネル1の入力音をモニターします。
CH2	チャンネル2の入力音をモニターします。
CH3	チャンネル3の入力音をモニターします。
CH4	チャンネル4の入力音をモニターします。
CAMERA IN	IN 端子の信号をモニターします。
CH1-2	チャンネル1-2のミックス音をモニターします。
CH3-4	チャンネル3-4のミックス音をモニターします。
HDMI1*	HDMI1の入力音をモニターします。
HDMI2*	HDMI2の入力音をモニターします。
HDMI3*	HDMI3の入力音をモニターします。
HDMI4*	HDMI4の入力音をモニターします。
HDMI5*	HDMI5の入力音をモニターします。
HDMI6*	HDMI6の入力音をモニターします。
HDMI7*	HDMI7の入力音をモニターします。
HDMI8*	HDMI8の入力音をモニターします。
HDMI1-2*	HDMI1-2のミックス音をモニターします。
HDMI3-4*	HDMI3-4のミックス音をモニターします。
HDMI5-6*	HDMI5-6のミックス音をモニターします。
HDMI7-8*	HDMI7-8のミックス音をモニターします。

※ HDMIが同期されると、HDMIの選択肢が表示されます。

メモ

モニター先の選択肢は、録音モードの設定に応じて異なります。

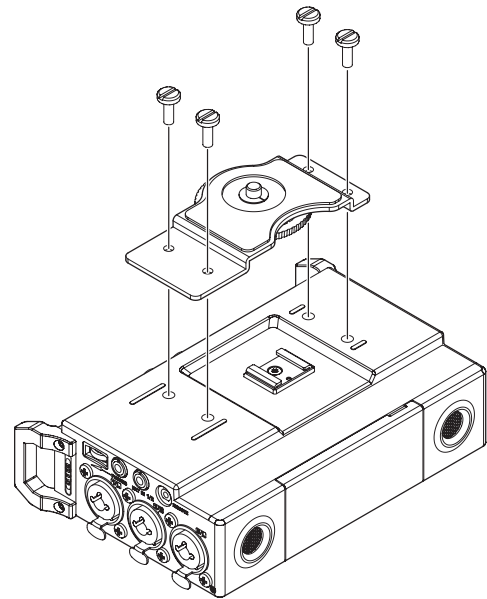
3. モニター先の選択が終了したら、**DATA**ダイヤルまたは **MONITOR** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

“**CAMERA IN**” 選択中は **PHONES** 端子から入力音をモニターできますが、表示されるレベルメーターは現在の録音モードに応じた入力音に対する表示になります。

トップパネルのアクセサリースューを使う

トップパネルにあるアクセサリースューを使うには、デジタル一眼レフカメラ取り付け用ブラケットを取り外します。



付属品のカメラ取り付け用ブラケットねじ穴カバーをネジ穴に取り付けることができます。

第4章 録音

本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。

録音オーディオファイル形式は、WAV / BWF (44.1k/48k/96k/192kHz、16/24ビット) から設定可能です。

BWF (Broadcast Wave Format) に対応したWAVファイルは、録音中に付けたスレート位置をBWF対応のソフトでマークとして使用することができます。また、本機では異なるレベルで2系統の録音を同時に行うこと（デュアル録音）や、4チャンネル + MIXの合計6トラックの録音をすることなどができます。

ファイルの保存先を設定する

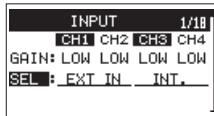
録音したファイルの保存するフォルダーを設定します。

録音したファイルは、カレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）に録音されます。詳細は、32ページ「フォルダー操作」のポップアップメニュー項目（“SELECT”）を参照してください。特に指定しない場合は、《SOUND》フォルダーの下にファイルが作成されます。

録音する入力ソースを設定する

“INPUT” ページの“SEL”項目で、録音する入力ソースを設定します。

1. “INPUT” ページの“SEL”項目を選択します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）



2. 録音するチャンネルを選択し、チャンネルの入力ソースを設定します。

項目	選択肢	内容
CH1 / CH2	EXT IN (初期値)	EXT IN 1/2端子から入力
	IN 1-2	IN 1端子とIN 2端子から入力
CH3 / CH4	INT. (初期値)	内蔵マイクから入力
	IN 3-4	IN 3端子とIN 4端子から入力

3. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

入力レベルを調節する

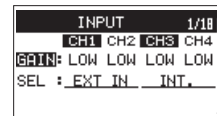
録音した音もしくは信号が入力が大きすぎて歪む、または小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前に入力レベルを調節する必要があります。

手で調節する機能の他にリミッター機能やオートレベルコントロール機能もありますので、お好みに応じてお使いください。（→ 23ページ「リミッター機能を設定する」）、（→ 24ページ「ALC（オートレベルコントロール）機能を設定する」）

ヒント

入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

1. “INPUT” ページの“GAIN”項目を選択します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）



2. 入力ゲインを設定するチャンネルを選択し、入力ゲインを設定します。

選択肢	内容
LINE	外部機器のライン出力端子をIN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子に接続した場合。
LOW (初期値)	
MID	マイクをIN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子に接続した場合。
HI	
HI+	

メモ

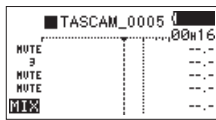
- “INPUT” ページの“SEL”項目の設定が“EXT IN”または“INT.”に設定されている場合には、“LINE”を選択できません。（→ 20ページ「録音する入力ソースを設定する」）
- “LOW”、“MID”、“HI”、“HI+”では、入力ゲインが異なります。入力の大きさに応じて選択を行います。どれを選択したらよいかわからない場合は、“LOW”を選択してください。そして入力レベル調節時に十分なレベルが得られない場合は、再び画面に戻って“MID”に切り換えてください。それでも十分なレベルが得られない場合は“HI”、“HI+”へと切り換えて調整してください。

注意

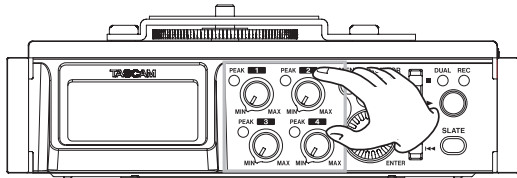
この設定に合わせて入力レベルの設定範囲が切り換わります。そのため切り換えたときに入力レベルが大きく変化する場合がありますので、出力レベルを絞り切った状態で切り換えてください。

3. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

4. DATAダイヤルを回して、ホーム画面をトリム表示モードに切り換えます。



5. 1 / 2 / 3 / 4つまみを使って、入力レベルを調節します。



入力音が大きすぎる場合は、各つまみの左側のPEAKインジケータが赤く点灯します。

目盛りには、-20dB（“▼”マーク付き）と-12dBの位置に入力レベル調整時の目印となる点線が表示されています。-20dBを中心にレベルが変化し、かつ最大レベルが-12dB前後が適正です。

1 / 2 / 3 / 4つまみのPEAKインジケータが点灯すると音が歪みますので、点灯しないように入力レベルを設定してください。

注意

マイク入力時は、アナログ回路で歪んだ場合にも点灯します。ライン入力時は、アナログ回路で歪んだ場合でも点灯しません。

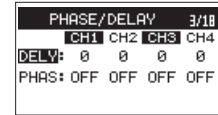
メモ

モニター音を聴きながら入力レベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンの本機のPHONES端子に接続してください。モニター音は、PHONES端子ボリュームで調節できます。

各マイクの距離を補正する

内蔵マイクと外部マイク、または接続した各外部マイク間の距離が離れている場合に生じる時間差を補正します。

1. “PHASE/DELAY” ページの “DEL” 項目を選択します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）

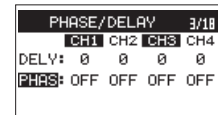


2. 接続した各マイク間の距離に応じた値を設定します。
設定値： “0” (ms、初期値) ~ “300” (ms)
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

各チャンネルの位相反転機能の設定

入力の位相反転機能を設定します。

1. “PHASE/DELAY” ページの “PHAS” 項目を選択します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）



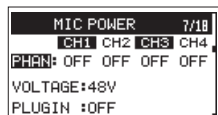
2. 位相を設定するチャンネルを選択し、選択したチャンネルの位相を設定します。
選択肢： “OFF” (初期値、正位相)、“ON” (逆位相)
3. 調節が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

マイクで使用する電源を設定する

ファントム電源を設定する

IN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子にファントム電源を必要とする外部マイクを接続したとき、ファントム電源をオンにします。

1. “MIC POWER” ページの “PHAN” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)

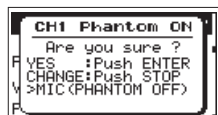


2. ファントム電源を必要とするチャンネルを選択し、ファントム電源のオン/オフを設定します。

選択肢: “ON”、“OFF” (初期値)

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

停止中に、“MIC POWER” ページの “PHAN” 項目を “ON” にすると、ファントム電源をオンにする確認のポップアップメッセージが表示されます (設定したチャンネルの該当する “INPUT” ページの “SEL” 項目が “IN 1-2” または “IN 3-4” の場合)。



確認のポップアップメッセージを表示中にDATAダイヤルを押すとファントム電源がオンになり、IN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子のファントム電源 (24V / 48V) がオンになりマイクに供給されます。

24V / 48Vの電圧設定は、“MIC POWER” ページで行います。(→ 22ページ「ファントム電源の電圧値の設定」)

メモ

- “INPUT” ページの “GAIN” 項目の設定が “LINE”、もしくは “SEL” 項目の設定が “EXT IN” または “INT.” の場合は、“PHAN” 項目を “ON” にしても実際にはファントム電源が出力されませんので、ポップアップメッセージは表示されません。
- “48V” に設定した場合、“24V” よりも電池の消耗が早くなります。

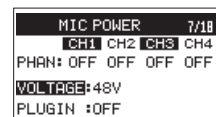
注意

- IN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- ファントム電源をオンにした状態で、IN 1 / IN 2 / IN 3 / IN 4端子にマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源をオンにすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご使用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。
- USBバスパワーで使用する場合、使用されるパソコンによってはファントム電源が供給できない場合があります。その場合は、専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) をご使用ください。
- コンデンサーマイクによっては、24Vに設定されたファントム電源では動作しないものもあります。
- ファントム電源使用中は、USB端子に接続されている電源ケーブルの抜き差しを行わないでください。本体に電池を挿入している状態でも電源が切れる可能性があり、録音中のデータが破損または消失してしまうことがあります。

ファントム電源の電圧値の設定

“MIC POWER” ページの “VOLTAGE” 項目で、ファントム電源を必要とする外部マイクを接続して使用するときの供給電源電圧値を設定します。

1. “MIC POWER” ページの “VOLTAGE” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. ファントム電源の供給電源電圧を設定します。

選択肢: “24V”、“48V” (初期値)

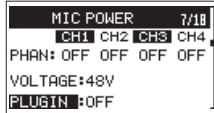
メモ

- “48V” に設定した場合、“24V” よりも電池の消耗が早くなります。
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

プラグインパワーの設定

EXT IN 1/2端子にプラグインパワー方式の外部マイクを接続したとき、プラグインパワーをオンにします。

1. “MIC POWER” ページの “PLUGIN” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. プラグインパワーのオン/オフを設定します。
選択肢：“OFF” (初期値)、“ON”
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

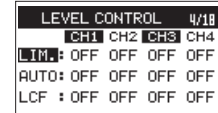
注意

- ダイナミックマイクや電池内蔵の外部マイクを接続するときは、プラグインパワーをオンにしないでください。プラグインパワーをオンにすると、接続したマイクの故障の原因になる恐れがあります。
- マイクを使って録音を行うときは、モニターシステムにヘッドホンを使って行ってください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて正常な音で録音できない、またはハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

リミッター機能を設定する

リミッター機能を使うと、入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないような録音レベルになります。

1. “LEVEL CONTROL” ページの “LIM.” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. リミッター機能を使うチャンネルを選択し、リミッター機能を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	リミッター機能をオフ
ON	選択したチャンネルのみリミッター機能をオン
3B	選択したチャンネルのみマルチバンドリミッター機能*をオン
LINK	選択したチャンネルと同期する
3BAND	選択したチャンネルと同期するチャンネルのマルチバンドリミッター機能*をオン

※ HIGH / MID / LOWの3バンドリミッター

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

入力音が大きすぎるとリミッター機能をオンにしても歪んでしまう場合があります。そのときは、手動で入力レベルを下げるか、音源からマイクを離してください。

メモ

- マルチバンドリミッターは、サンプリング周波数の設定が44.1k/48kHzの場合のみ設定できます。
- “ON” または “3B” にすると過大入力したチャンネルのみリミッター機能が働き、“LINK” または “3BAND” にすると過大入力したチャンネルとその同期するチャンネルにリミッター機能が働きます。

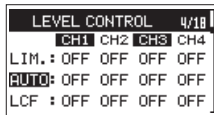
ALC（オートレベルコントロール）機能を設定する

マイク入力時のALC（オートレベルコントロール）機能を設定します。

ALCをオンにすると、入力音声に合わせて入力レベルが自動で調整されます。

入力音が小さいときは大きく、大きいときは小さくなるように録音レベルを自動で調節するため、会議録音などに適しています。このモードでは、手動で録音レベルを変更することはできません。

1. “LEVEL CONTROL” ページの “AUTO” 項目を選択します。
(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)

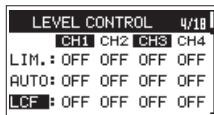


2. オートレベルコントロール機能を使うチャンネルを選択し、オートレベルコントロール機能のオン/オフを設定します。
選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使用すると、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

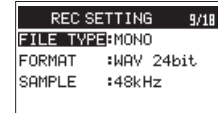
1. “LEVEL CONTROL” ページの “LCF” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. ローカットフィルターを使うチャンネルを選択し、ローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。
選択肢: “OFF” (初期値)、“50” (Hz)、“80” (Hz)、“120” (Hz)、“180” (Hz)、“220” (Hz)
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

録音形式／ファイルフォーマット／サンプリング周波数を設定する

録音を実行する前に “REC SETTING” ページの各項目を使って、録音オーディオのファイル形式を設定します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



録音形式の設定

“FILE TYPE” 項目を選択し、録音形式を設定します。

選択肢	内容
MONO (初期値)	録音選択したチャンネルをモノラルファイルで録音します。 録音選択したチャンネル分のファイルが作成されます。
STEREO	ステレオファイルで録音します。 例) チャンネル1を録音選択した場合、ステレオファイル (チャンネル2は無音) が作成されます。チャンネル1とチャンネル3を録音選択した場合、ステレオファイルx2 (チャンネル2とチャンネル4は無音) となります。
6ch	1チャンネルから4チャンネルとMIXが、全て1つのファイルとして録音されます。

ファイルフォーマットの設定

“FORMAT” 項目を選択し、ファイル形式を設定します。

選択肢: “BWF 16bit”、“BWF 24bit” (初期値)、“WAV 16bit”、“WAV 24bit”

メモ

BWFは放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。ファイルの拡張子は “.wav” で、WAVファイルの拡張子と同じです。本書では、BWFに対応したWAVファイルを「BWF」、BWFに対応していないWAVファイルを「WAV」と表記します。

サンプリング周波数の設定

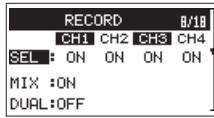
“SAMPLE” 項目を選択 (反転表示) し、サンプリング周波数を設定します。

選択肢: “44.1kHz”、“48kHz” (初期値)、“96kHz”、“192kHz”

録音するチャンネルを設定する

工場出荷時、録音するチャンネルの設定はオンに設定されています。録音するチャンネルをオフにするには、“RECORD” ページの“SEL”項目をオフに設定します。

1. “RECORD” ページの“SEL”項目を選択します。(→ 12 ページ「メニュー操作の手順」)



2. 録音するチャンネルを選択し、録音チャンネルのオン/オフを設定します。

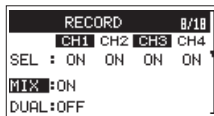
選択肢：“ON”（初期値）、“OFF”

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

MIXチャンネルの録音設定

工場出荷時、“MIX”項目で設定されたMIXチャンネルの録音設定はオンに設定されています。MIXチャンネルの録音をオフにするには、“RECORD” ページの“MIX”項目をオフに設定します。

1. “RECORD” ページの“MIX”項目を選択します。(→ 12 ページ「メニュー操作の手順」)



2. MIXチャンネルの録音のオン/オフを設定します。

選択肢：“ON”（初期値）、“OFF”

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

MIXチャンネルの録音設定が“OFF”のとき、1 / 2 / 3 / 4 の録音設定が“OFF”になっているチャンネルは入力がミュートされます。

録音する (MONO / STEREO / POLY (6ch) 録音)

録音を開始する

1. 録音 (●) ボタンを押します。通常の録音が始まります。



録音が始まるとRECインジケータが点灯し、ディスプレイには録音経過時間および録音残時間が表示されます。

2. 録音を終了するには、1/■ボタンを押します。

FILE TYPEがMONOの場合のファイル名

チャンネルごとに1つのファイルが作成されます。ファイル名が、以下のようになります。

TASCAM_0001_1.WAV
① ② ③

- ①：“FILE” ページの“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：アサインチャンネル

FILE TYPEがSTEREOの場合のファイル名

1 / 2チャンネル、3 / 4チャンネル、MIXチャンネルごとに1つのファイルが作成されます。ファイル名が、以下のようになります。

TASCAM_0002_12.WAV
① ② ③

- ①：“FILE” ページの“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：アサインチャンネル

POLY (6ch) 録音時のファイル名

1 / 2 / 3 / 4 / MIXチャンネル全てのチャンネルが1つのファイルに作成されます。ファイル名が、以下のようになります。

TASCAM_0002_6CH.WAV
① ② ③

- ①：“FILE” ページの“WORD”項目の設定による
- ②：録音ファイルのプロジェクト番号
- ③：アサインチャンネル

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける (ファイルインクリメント)

録音中に手動で、またはファイルサイズが2GBになったときに自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続することができます (ファイルインクリメント機能)。

録音中に手動でファイルインクリメントする

録音中に、いつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に、**3/▶▶▶** ボタンを押します。

メモ

新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。

注意

- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 新たに作成するファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

録音中に自動でファイルインクリメントする

録音中にファイルサイズが2GBに達すると、自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続します。

注意

フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。

異なる入力レベルで同時に2系統の録音をする (DUAL REC)

本機では、通常の録音とは別に、異なる入力レベルでもう1つの録音を同時に行うことができます。たとえば、マイク録音を行う際に、片方はできるだけ入力レベルを上げた状態で通常の録音をし、安全のために入力レベルを少し低めに設定したもう1つの録音を同時にするということができます。

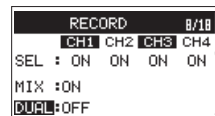
録音ファイルは、2個 (入力レベルを上げたファイル、入力レベルを下げたファイル) で保存されます。

メモ

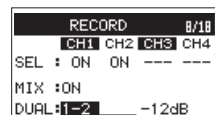
通常の録音における入力レベル設定は、従来の方で行ってください。(→ 20ページ「入力レベルを調節する」)

デュアル録音の設定をする

1. “RECORD” ページの “DUAL” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. デュアル録音するチャンネルを設定します。



選択肢: “OFF” (初期値)、“1-2”、“3-4”

3. デュアル録音するもう1つのファイルの入力レベルを設定します。

選択肢: “-1dB” ~ “-12dB” (初期値、“1dB” ごと)

メモ

録音選択が3チャンネル以上、またはチャンネル1とチャンネル3のようにステレオペアにならない状態では設定できません。

4. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

デュアル録音を開始する

録音 (●) ボタンを押すと、デュアル録音が始まります。デュアル録音時は、以下のような録音画面表示になります。



録音画面の入力ソース表示部に現在の入力ソースと、デュアル録音するもう1つのファイルの入力レベルを表示します。

デュアル録音時のファイル名

デュアル録音を行うと、2つのファイルが同時に作成されます。デュアル録音されたもう1つのファイルのファイル名は、通常録音されたファイルのファイル名に “-XX” が追加された名前になります。

“-XX” は、下げた入力レベル幅です。

TASCAM_0003_12.WAV

① ② ③

TASCAM_0003_D12-05.WAV

① ② ④ ③ ⑤

- ①: “FILE” ページの “WORD” 項目の設定による
- ②: 録音ファイルのプロジェクト番号
- ③: アサインチャンネル
(“12” → チャンネル1とチャンネル2, “34” → チャンネル3とチャンネル4)
- ④: “D” → デュアル録音時のレベルを下げたファイル
- ⑤: 入力レベルを-5dB設定でデュアル録音されたファイル
(例: -6dBでは “-06”、-10dBでは “-10”)

マーク機能を使う

録音中に手動でマークを付ける

録音中または録音待機中にDATAダイヤルを押すと、その位置にマークを付けることができます。

登録したマーク番号がディスプレイにポップアップ表示されます。



メモ

- マークは、ファイルごとに最大99個付けることができ、ファイルにマークの情報を記録します。
- 本機で録音したBWF形式で録音されたWAVファイルは、録音中に付けたマークの情報がファイルへ保存されます。BWF対応ソフトなどで、このマーク情報を使用することができます。

マークの位置への移動

停止中または再生中に◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押すと、選択されているファイルに挿入されているマークの位置へ移動することができます。

頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

メモ

異なるファイルのマークへの移動はできません。

オートトーン機能を使う

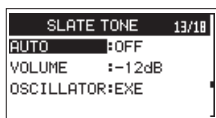
オートトーン機能は、録音開始時や録音終了時に自動的にトーン信号を挿入する機能です。

右サイドパネルの📷 OUT端子をカメラの音声入力端子に接続すると、同じトーン信号がお互いのファイルに記録されるので、動画編集ソフトで位置合わせの際に目安にすることができます。

デジタル一眼レフカメラとの接続方法の詳細については、16ページ「カメラと接続する」をご参照ください。

オートトーン機能を設定する

1. “SLATE TONE” ページの“**AUTO**”項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)

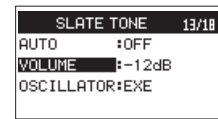


2. トーン信号を挿入する位置を設定します。
選択肢：“OFF”（初期値）、“HEAD”（録音開始時のみ）、“HEAD+TAIL”（録音開始時と終了時）
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

オートトーンやスレートトーンの音量調節機能

オートトーンやスレートトーンの音量を調節することができます。

1. “SLATE TONE” ページの“**VOLUME**”項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)

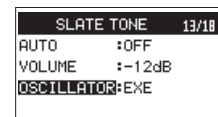


2. トーン音量を設定します。
選択肢：“-36dB”、“-30dB”、“-24dB”、“-18dB”、“-12dB”（初期値）
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

オシレーターを使う

オシレーターは、本機と接続機器間のレベルを調整する際に使用します。

1. “SLATE TONE” ページの“**OSCILLATOR**”項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. DATAダイヤルを押します。
 設定を行うポップアップメッセージが表示されます。

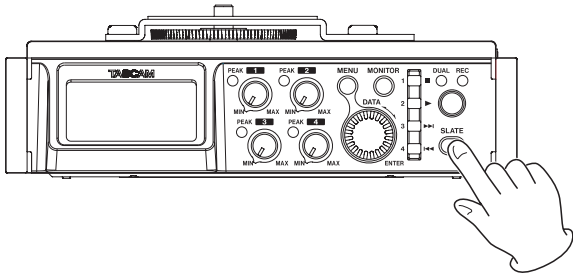


3. 発信する信号のレベルを設定します。
選択肢：“-20dB”（初期値）、“-18dB”
4. 設定が終了したら、1/■ボタンを押して発信を中止します。

スレートトーンを挿入する

録音中／再生中／モニター中にリアパネルの**SLATE**ボタンを押すと、任意の位置でスレートトーンを出力します。

録音中は、挿入したスレートトーンをファイルに記録することができます。



デジタル一眼レフカメラとの接続方法の詳細については、16ページ「カメラと接続する」をご参照ください。

メモ

SLATEボタンは、誤操作防止のためしばらく押し続けないとスレートトーンが挿入されません。

スレートトーンは、**LINE OUT**端子と **OUT**端子から出力されます。

スレートトーン挿入位置への移動

メモ

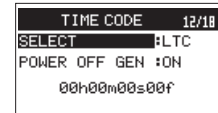
スレートトーン挿入位置には、マークが設定されます。マークのロケート方法は、27ページ「マークの位置への移動」をご参照ください。

タイムコードを入力し、録音開始時間をファイルに記録する

タイムコードを取得する入力先を設定する

入力するタイムコードのソースを設定します。

1. “**TIME CODE**” ページの “**SELECT**” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. 入力するタイムコードのソースを設定します。

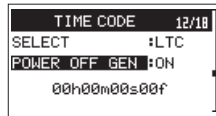
選択肢	内容
LTC (初期値)	TIMECODE IN 端子からのタイムコードを入力します。 タイムコードが入力されているときは、入力タイムコードに同期します。 タイムコード入力がなくなると、自走します。 再び入力されるとその入力に同期します。
HDMI	HDMI IN 端子からのタイムコードを入力し、入力タイムコードに同期します。 HDMIが切断されると停止します。
RTC	本機内蔵時計の時間からタイムコードを生成します。 電源投入時、本モードに変更したとき、および内蔵時計を再設定したとき、内蔵時計の時間をキャプチャーし、自走します。

3. 設定が終了したら、**MENU**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

パワーオフジェネレーター機能を設定する

タイムコードジェネレーターが走行中に電源を切った場合は、電源を切ったあとも、タイムコードジェネレーターが走り続けるような動作をさせるかどうかを設定します。

1. “TIME CODE” ページの “POWER OFF GEN” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. パワーオフジェネレーターのオン/オフを設定します。

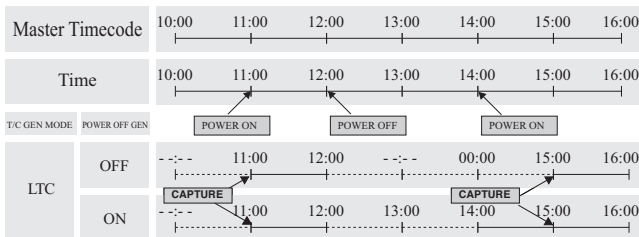
選択肢	内容
ON (初期値)	タイムコードジェネレーターが走行中に本機の電源をオフした場合、タイムコードジェネレーターは走り続けます。
OFF	タイムコードジェネレーターが走行中に本機の電源をオフした場合、タイムコードジェネレーターも停止します。

メモ

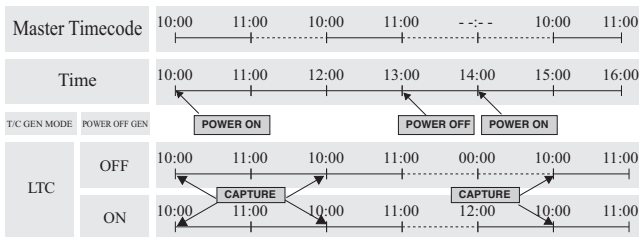
- 本設定は、タイムコードソースが “LTC” の場合のみ有効です。
- パワーオフジェネレーター機能が “ON” ときはタイムコードが進み続けるので、再度電源を投入したときに連続した時間でタイムコードジェネレーターがスタートします。これにより、再キャプチャーなどの作業が不要になります。ただし、本機能は内蔵時計を元に補間するため、再起動時にリスタートするタイムコードの値は、若干の誤差を生じることがあります。ただし、内蔵時計は高精度のTCXOによって常に校正されていますので誤差は2ppm以下です。

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

ケース1：マスタータイムコードが連続している場合



ケース2：マスタータイムコードが連続していない場合



CAPTURE

本機のタイムコード入力端子にマスタータイムコードを入力し、その入力されたマスタータイムコードを本機が認識することです。

タイムコードカウンターを確認する

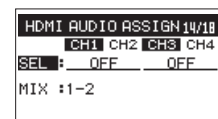
“TIME CODE” ページの “POWER OFF GEN” 項目の下側に、タイムコードジェネレーターの時刻が表示されています (〇〇時〇〇分〇〇秒〇〇フレーム)。

HDMI出力の音声に本体の音声を出力する

HDMI出力に各入力チャンネルの音声を出力する

HDMI出力音声に本機の入力音声を入れ換えてのせることができます。HDMIのオーディオチャンネルは8チャンネルあり、2チャンネルごとに本機の入力音声を入れ換えることが可能です。

1. “HDMI AUDIO ASSIGN” ページの “SEL” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



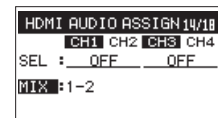
2. 本機の入力チャンネルを選択し、入れ換えるHDMIの音声チャンネルを設定します。

選択肢: “OFF” (初期値)、“1-2”、“3-4”、“5-6”、“7-8”

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

HDMI出力にMIXの音声を出力する

1. “HDMI AUDIO ASSIGN” ページの “MIX” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. MIXの音声に入れ換える、HDMIの音声チャンネルを設定します。

選択肢: “OFF”、“1-2” (初期値)、“3-4”、“5-6”、“7-8”

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- “OFF” の設定では、HDMI入力音声をそのまま出力します。
- 設定は、重複できません。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD / SDHC / SDXCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット (録音時の設定)		SD / SDHC / SDXCカード容量		
		8GB	32GB	128GB
WAV / BWF 16ビット (2ch)	44.1kHz	12時間35分	50時間23分	201時間35分
	48kHz	11時間34分	46時間17分	185時間13分
	96kHz	5時間47分	23時間08分	92時間36分
	192kHz	2時間53分	11時間34分	46時間18分
WAV / BWF 24ビット (2ch)	44.1kHz	8時間23分	33時間35分	134時間24分
	48kHz	7時間42分	30時間51分	123時間28分
	96kHz	3時間51分	15時間25分	61時間44分
	192kHz	1時間55分	7時間42分	30時間52分

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD / SDHC / SDXCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD / SDHC / SDXCカードに可能な録音合計時間です。
- MONO録音（録音チャンネルが1チャンネルの場合）の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。
- 4チャンネル録音の場合は、上記録音時間の約半分の時間となります。

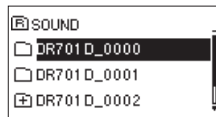
第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）

ブラウズ画面では、SDカード上の“SOUND”フォルダー（オーディオファイルの収納フォルダー）の内容を見ることができます。

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも“SOUND”フォルダー内のフォルダー構成の変更やファイルの削除ができます。

ブラウズ画面を表示するには、“MEDIA”ページの“BROWSE”項目を選択し、DATAダイヤルを押します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）



この画面には、ブラウズ画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダーの内容が表示されます。

ブラウズ画面内のナビゲーション

ブラウズ画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダーは、第2階層まで作成できます。

- DATAダイヤルを回して、ファイルやフォルダーを選択します。
- フォルダーを選択中（反転表示中）に3/▶▶ボタンを押すと、フォルダーの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に4/◀◀ボタンを押すと、現在開いているフォルダーが閉じて、上位の階層が表示されます。
- フォルダーやファイルを選択中（反転表示中）にDATAダイヤルを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
- ファイルを選択中（反転表示中）に2/▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルが再生されます。このファイルを含むフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルが記録されるフォルダーとなります。また、このフォルダーが再生範囲となります。
- ファイルを選択中（反転表示中）に3/▶▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルがロードされます。このファイルを含むフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルが記録されるフォルダーとなります。また、このフォルダーが再生範囲となります。
- フォルダーを選択中（反転表示中）に2/▶ボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのフォルダーの最初のファイル（リスト表示したときに一番上に表示されるファイル）が再生されます。このフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルが記録されるフォルダーとなります。また、このフォルダーが再生範囲となります。

ブラウズ画面内のアイコン表示

以下にブラウズ画面内のアイコン表示内容を説明します。

SOUNDフォルダー (📁)

ルート（ROOT）階層表示中のブラウズ画面では、最上段にSOUNDフォルダーが表示されます。

オーディオファイル (🎵)

音楽ファイルは、“🎵”アイコンのあとにファイル名が表示されます。

フォルダー (📁)

内部にフォルダーが存在するフォルダーです。

フォルダー (□)

内部にフォルダーが存在しないフォルダーです。

表示中のフォルダー (📁)

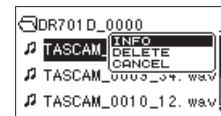
現在、このフォルダーの内容を画面表示しています。

新しいフォルダー (📁)

新しいフォルダーを作成します。

ファイル操作

ブラウズ画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）しDATAダイヤルを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択（反転表示）しDATAダイヤルを押すと、本機が以下の動作を行います。

INFO

選択したファイルの情報（日付、サイズ）が表示されます。再度DATAダイヤルを押すか1/■ボタンを押すと、ブラウズ画面に戻ります。



DELETE

選択したファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

DATAダイヤルを押すとファイルが削除され、1/■ボタンを押すと削除が中止されます。



注意

現在選択されているファイルを含む、同じ基本番号のファイルが同時に削除されます。

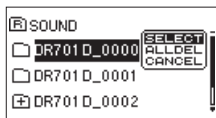
CANCEL

選択中（反転表示中）のファイルに関する操作を取り消し、ポップアップメニューを閉じます。

第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）

フォルダー操作

ブラウズ画面内の希望のフォルダーを選択し、**DATA**ダイヤルを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択（反転表示）し、**DATA**ダイヤルを押すと本機が以下の動作を行います。

SELECT

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。このフォルダーが再生範囲になります。また、この操作で選択されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

ALLDEL

選択したフォルダー内のファイルを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

DATAダイヤルを押すとファイルが削除され、**1/■** ボタンを押すと削除が中止されます。



メモ

書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除されません。

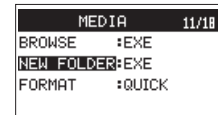
CANCEL

選択中（反転表示中）のフォルダーに関する操作を取り消し、ポップアップメニューを閉じます。

新しいフォルダーを作る

メニュー画面のMEDIAページを使って作成する

1. “**MEDIA**” ページの “**NEW FOLDER**” 項目を選択します。（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）



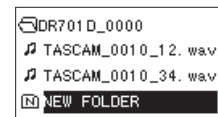
2. **DATA**ダイヤルを押します。
新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. **DATA**ダイヤルを押すと、新しいフォルダーが作成されます。
1/■ ボタンを押すと、フォルダーの作成を中止します。

ブラウズ画面のNEW FOLDERを使って作成する

1. 各フォルダーの一番下の “**NEW FOLDER**” を選択します。



2. **DATA**ダイヤルを押します。
新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. **DATA**ダイヤルを押すと、新しいフォルダーが作成されます。
1/■ ボタンを押すと、フォルダーの作成を中止します。

メモ

本機では3階層以上のフォルダーを扱うことはできないため、第2階層のフォルダーには “**NEW FOLDER**” はありません。新規に作成されたフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、このフォルダーが再生範囲になります。

再生する

ホーム画面で停止中に**2/▶** ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

ブラウザ画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

一時停止する

ホーム画面で再生中に**2/▶** ボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。

再度**2/▶** ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

停止する

ホーム画面で再生中に**1/■** ボタンを押すと停止し、ファイルの先頭に戻ります（停止）。

早戻し／早送りをする（サーチ）

ホーム画面で停止中または再生中に**4/◀◀** ボタン／**3/▶▶** ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチ再生を行います。

メモ

4/◀◀ ボタン／**3/▶▶** ボタンを押し続けると、サーチスピードが加速します。

再生位置をジャンプする

ホーム画面で、**4/◀◀** ボタンまたは**3/▶▶** ボタンを押すと、隣のマークにジャンプします。

現在の再生位置の前にマークがない場合に**4/◀◀** ボタンを押すと、ファイルの先頭にジャンプします。

ファイルの先頭で**4/◀◀** ボタンを押すと、1つ前のファイルの先頭にジャンプします。

現在の再生位置の後ろにマークがない場合に**3/▶▶** ボタンを押すと次のファイルの先頭にジャンプします。

メモ

- 再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレイに表示されます。
- ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレイに動作アイコン“■”を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン“||”を表示します。
- ファイルを移動したい場合には、**4/◀◀** ボタンまたは**3/▶▶** ボタンを必要なだけ押してください。

デュアル録音したファイルの再生

デュアル録音で作成されたファイルは、通常のレベルで作成されたファイルの次に登録されています。

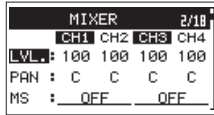
通常録音されたファイルを再生し、**3/▶▶** ボタンを押すと入力レベルを下げ、録音したファイルを再生します。

第7章 ミキサー

本機には、左右の定位/音量バランスを、チャンネルごとに設定できるミキサー機能があります。

ミキサーを設定する

1. “MIXER” ページの “LVL.” 項目または “PAN” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. 変更したい項目を選択し、設定値を変更します。

項目	選択肢	動作内容
LVL.	0 ~ 100	音量バランスの調整を行います。 (0 : 最小 ~ 100 : 最大)
PAN	L12 ~ C ~ R12	左右のバランス調整を行います。 (L12 : 左 ~ C : 中央 ~ R12 : 右)

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

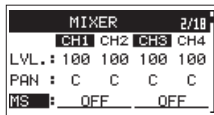
メモ

- 停止時、一時停止中、再生中、録音待機中、録音中のいずれの時も、操作が可能です。
- 録音中は、“MS” 項目の変更できません。

MSマイクを使う

本機には、MSデコーダーが搭載されており、MSマイクを使用した録音/再生ができます。

1. IN 1端子とIN 2端子、またはIN 3端子とIN 4端子にMSマイクを接続します。
MSマイクのMid側をIN 1端子またはIN 3端子に、Side側をIN 2端子またはIN 4端子にそれぞれ接続してください。
MidとSideを逆に接続すると正しくデコードすることができません。
2. “MIXER” ページの “MS” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



3. MSマイク使用時のデコードモードを設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	通常モードでの録音を行います。
REC	デコードしながら録音するとき使用するモードです。 再生は、通常の再生を行います。
MONI	あとからデコードする目的でMSマイクの出力をデコードせずに録音するとき、録音時にモニターする場合に使用するモードです。 デコードせずに録音したファイルをデコードして再生する場合にも使用します。

4. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。
5. 録音操作を行った場合は、デコードされた信号が録音されます。再生操作を行った場合は、デコードしながら再生します。

音の広がり具合を調節する

“MIXER” ページの “MS” 項目を “REC” または “MONI” に設定すると、“PAN” 項目が “WIDE” 項目に変更され音の広がり具合を調節することができます。

入力側にデコーダーを使用しているときは “MS” 項目を “REC”、再生側に使用している場合は “MONI” に設定します。

選択肢	動作内容
0 ~ 100	音の広がり具合を調節します。

“0” でMidが100%となり、数字が大きいほどSideの割合が大きくなります。

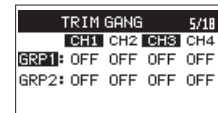
GANG動作モードの設定

GANG動作モードを設定すると、1 / 2 / 3 / 4つまみの複数のつまみを同時に連動させて操作することが可能になります。

連動するつまみは、2つのグループに設定できます。グループ内で一番若い番号のつまみがマスターになり、その他のつまみはスレーブとなります。

マスターのつまみを操作すると、スレーブが連動します。スレーブのつまみ操作は無効です。

1. “TRIM GANG” ページの “GRP1” 項目または “GRP2” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



“GRP1” : GANGグループ設定1

“GRP2” : GANGグループ設定2

2. GANG動作モードを設定するチャンネルを選択し、GANG動作モードのオン/オフを設定します。

選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

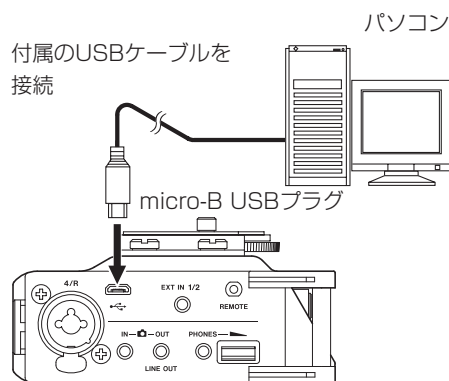
- 同じチャンネルをグループ1とグループ2両方に設定することはできません。
- マスターよりスレーブが先に上限もしくは下限に達しても、マスターを続けて操作できます。その際レベル差は本体メモリーに記憶するため、マスターを逆に操作したときに記憶したレベル差を保持してスレーブが動作します。

第8章 パソコンと接続する

本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

WAV : 44.1k/48k/96k/192kHz、16/24ビット

BWF : 44.1k/48k/96k/192kHz、16/24ビット



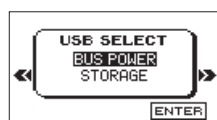
メモ

- 本機は、USB 2.0 HIGH SPEEDマストレージクラス対応のパソコンと接続することを推奨します。
- 本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。
- WAV / BWFファイルの拡張子は、どちらも**«.wav**となります。

注意

- USBを接続し“**STORAGE**”を選択（反転表示）した場合は、本機の操作はできません。
- パソコンとの接続は、ハブを経由せずに直接接続してください。

電源がオンのときにUSB接続すると、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、パソコンとUSB接続するかを選択する“**USB SELECT**”画面が表示されます。



DATAダイヤルを回して“**STORAGE**”を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと本機がパソコンに接続され、ディスプレイに“**USB connected**”が表示されます。



本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

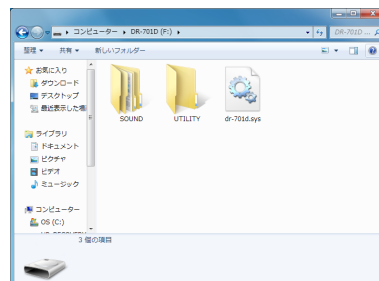
メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます。（USBバスパワー優先）

《**コンピュータ**》を開くと、パソコンのディスプレイ上に本機が《**DR-701D**》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます（本機でフォーマットした場合）。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレイ上の《**DR-701D**》ドライブをクリックすると、《**SOUND**》フォルダーと《**UTILITY**》フォルダーが表示されます。
2. 《**SOUND**》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。



パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレイ上の《**DR-701D**》ドライブをクリックすると、《**SOUND**》フォルダーと《**UTILITY**》フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを《**SOUND**》フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、《**SOUND**》フォルダー内を管理することができます。
- 《**SOUND**》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上やブラウズ画面上に表示されます。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

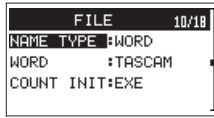
第9章 各種設定および情報表示

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うために、さまざまな設定を行います。

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイル名の形式を設定することができます。

1. “FILE” ページの “NAME TYPE” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. ファイル名の形式を設定します。

選択肢	内容
“WORD” (初期値)	“WORD” で設定した6文字をファイル名に付けます。 (例) TASCAM_0001_12.wav
“DATE”	日付をファイル名に付けます。 (例) 141001_0001_12.wav

メモ

日付は、本体内の時計を基に設定されます。(→ 15ページ「日時を設定する」)

文字 (WORD) の設定

“WORD” 項目で、DATAダイヤルを押してカーソルを移動し、DATAダイヤルを回して文字を設定します。

文字は、英数の他に、記号「! # \$ % & ' () + , - . : ; = @ [] ^ _ ` { | }」が使用可能です。

数字 (COUNT) の初期化設定

“COUNT INIT” 項目でDATAダイヤルを押して実行すると、これ以降のファイル作成時より、“WORD” 項目で設定した文字または日付に続く数字部分が、“0001” から始まります。

SDカードをフォーマットする

SDカードをフォーマットします。

フォーマットを行うと、SDカード上の全ての音楽ファイルが消去され、《SOUND》フォルダー、《UTILITY》フォルダーおよび《dr-701d.sys》が自動生成されます。

注意

フォーマットの実行は、別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

1. “MEDIA” ページの “FORMAT” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. フォーマットの方法を設定します。

選択肢	内容
“QUICK” (初期値)	クイックフォーマットを実行します。
“ERASE”	イレースフォーマットを実行します。

メモ

“ERASE” を実行すると、繰り返し使用で書き込み性能が劣化したSDカードを復活させる可能性があります。

3. DATAダイヤルを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



["QUICK" 選択時]



["ERASE" 選択時]

4. DATAダイヤルを押して、フォーマットを実行します。フォーマットしない場合は、1/■ ボタンを押します。

ディスプレイのコントラスト調節

MENUボタンを押しながらDATAダイヤルを回すことにより、ディスプレイのコントラストを調節することができます。

ピークホールド表示の設定

レベルメーターのピークホールド表示の設定を行います。

1. “METER/TRIM” ページの “PEAK HOLD” 項目を選択します。
(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. レベルメーターのピークホールド時間を設定します。
選択肢：“OFF”、“1sec”、“2sec”（初期値）、“10sec”、“HOLD”（常にホールド）
3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

ホーム画面を表示中にDATAダイヤルを回すと、ピークホールド表示をリセットします。

トリム操作のミュート設定

ホーム画面がトリム表示モード中、1 / 2 / 3 / 4つまみを最小に絞ったときにミュートするかどうかの設定をします。

1. “METER/TRIM” ページの “TRIM MIN” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



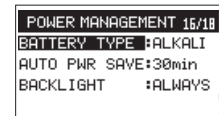
2. トリムカーブを設定します。

選択肢	内容
“MIN”	1 / 2 / 3 / 4つまみを最小に絞ったときにミュートしない。
“MUTE” (初期値)	1 / 2 / 3 / 4つまみを最小に絞ったときにミュートする。

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

電源管理の設定

“POWER MANAGEMENT” ページで、各種電源管理の設定を行います。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



電池の種類の設定

“BATTERY TYPE” 項目で、使用する電池の種類を設定します。この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

- 選択肢：“ALKALI”（アルカリ乾電池、初期値）、
“NI-MH”（ニッケル水素電池）、
“LITHIUM”（リチウム乾電池）

電源のオートパワーセーブ機能の設定

“AUTO PWR SAVE” 項目で最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフ(スタンバイ状態)になるまでの時間を設定します。

- 選択肢：“OFF”（自動オフしない）、“3min”（分）、“5min”（分）、“10min”（分）、“30min”（分、初期値）

バックライトの設定

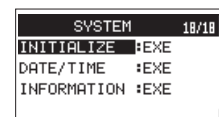
“BACKLIGHT” 項目で電池供給のときに、最後に操作してから自動的にバックライトが暗くなるまでの時間を設定します。

- 選択肢：“OFF”（消灯します。）、“5sec”（秒、初期値）、“10sec”（秒）、“15sec”（秒）、“30sec”（秒）、“ALWAYS”（常に明るいままで。）

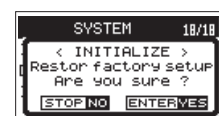
出荷時の設定に戻す

本機のバックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. “SYSTEM” ページの “INITIALIZE” 項目を選択します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」)



2. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

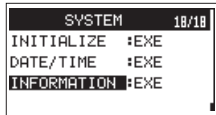


3. DATAダイヤルを押して、イニシャライズを実行します。
イニシャライズしない場合は、1/■ボタンを押します。

情報を見る (INFORMATION)

インフォメーション画面で、本機の各種情報を見ることができます。以下の手順でインフォメーション画面を表示します。

1. “SYSTEM” ページの “INFORMATION” 項目を選択し、DATAダイヤルを押します。(→ 12ページ「メニュー操作の手順」) インフォメーション画面が表示されます。



インフォメーション画面の “PROJECT (1/3)” ページが表示されます。

2. DATAダイヤルを回して、ページを切り換えます。各ページには、以下の情報が表示されます。

“PROJECT (1/3)” ページ：

現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示

“CARD (2/3)” ページ：

セットしているSDカードの使用状況を表示

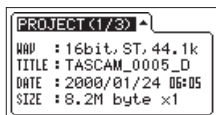
“SYSTEM (3/3)” ページ：

本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

3. 確認が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

ファイル情報ページ (PROJECT)

“PROJECT (1/3)” ページでは、現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示します。



WAV / BWF

オーディオファイルの形式を表示します。

ビット長、ステレオ/モノラル、サンプリング周波数 (Hz) を表示します。

TITLE

ファイル名を表示します。

DATE

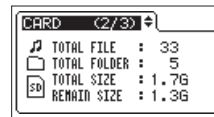
ファイルの日付を表示します。

SIZE

ファイルサイズを表示します。

カード情報ページ (CARD)

“CARD (2/3)” ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。



TOTAL FILE

SOUNDフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

TOTAL FOLDER

SOUNDフォルダー内にあるフォルダー数を表示します。

TOTAL SIZE

SDカードの総メモリー容量を表示します。

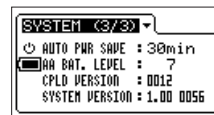
REMAIN SIZE / USED SIZE

SDカードの残容量/使用量を表示します。

4/1◀◀ボタンまたは3/▶▶ボタンを押すと、表示が “REMAIN SIZE” と “USED SIZE” に交互に切り換わります。

システム情報ページ (SYSTEM)

“SYSTEM (3/3)” ページでは、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。



AUTO PWR SAVE

電源のオートパワーセーブ機能の設定時間を表示します。

AA BAT. LEVEL

USB電源で動作中、本機の電池ケースにセットされている乾電池の残量を表示します。

CPLD VERSION

CPLDのバージョン情報を表示します。

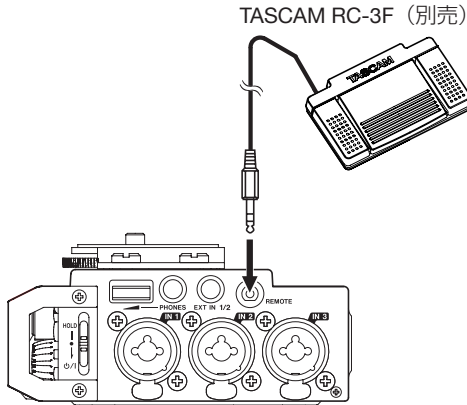
SYSTEM VERSION

システムファームウェアのバージョン情報を表示します。

第10章 REMOTE端子を使う

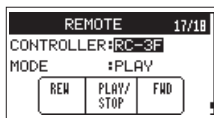
本機には、**REMOTE**端子が用意されています。
別売の専用フットスイッチ型リモートコントローラー（TASCAM RC-3F）または別売の専用ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）を接続して、本機を操作することができます。

フットスイッチを使う（TASCAM RC-3F）



フットスイッチを設定する

1. “REMOTE” ページの “CONTROLLER” 項目を選択します。
（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）
2. “CONTROLLER” 項目を “RC-3F” に設定します。
（初期値：“RC-3F”）



3. “MODE” 項目を選択し、フットスイッチのスイッチモードを設定します。

選択肢：“PLAY”（初期値）、“REC 1”、“REC 2”

MODE	フットスイッチ		
	L	C	R
PLAY	REW	PLAY / STOP	FWD
REC 1	STOP	REC	INC*
REC 2	STOP	REC	SLATE

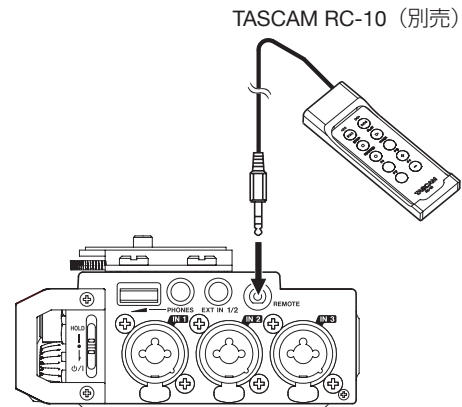
※ INC：ファイルインクリメント機能
（INC以外は、本体機能と同じです）

4. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

フットスイッチを使う

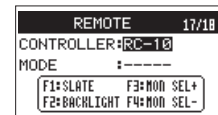
フットスイッチの各ペダルを踏むと、“REMOTE” ページで割り当てられた動作を行います。

リモコンを使う（TASCAM RC-10）



リモコンを設定する

1. “REMOTE” ページの “CONTROLLER” 項目を選択します。
（→ 12ページ「メニュー操作の手順」）
2. “CONTROLLER” 項目を “RC-10” に設定します。
（初期値：“RC-3F”）



モードの詳細

ファンクションボタン			
F1	F2	F3	F4
SLATE	Backlight Always ON / Backlight OFF	MONITOR SELECT +	MONITOR SELECT -

3. 設定が終了したら、MENUボタンを押してホーム画面に戻ります。

リモコンを使う

リモコン（TASCAM RC-10）の各ファンクションボタン（F1～F4）を押すと、“REMOTE” ページで割り当てられた動作を行います。

第11章 メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-701Dでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Battery Empty	電池の残量がありません。電池を交換してください。
Card Error	SDカードを正常に認識できません。カードを交換してください。
Card Full	SDカードの残容量がありません。不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
File Full	フォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)を超えました。不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
File Not Found	ファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
File Not Found Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態でDATAダイヤルを押すと、システムファイルが作られます。
File Protected	読み取り専用ファイルのため、削除できません。
Format Error Format CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。フォーマットは、必ずDR-701D本体で行ってください。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でDATAダイヤルを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。
Invalid Card Change Card	SDカードが正常でない可能性があります。SDカードを交換してください。
Invalid SysFile Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常ではありません。このメッセージが表示されている状態でDATAダイヤルを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
Layer too Deep	フォルダーは、2階層までです。このフォルダー内に新たなフォルダーを作成することはできません。
MBR Error Init CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でDATAダイヤルを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。
No Card	SDカードがセットされていません。録音可能なSDカードを挿入してください。
No PB File	再生可能なファイルがありません。ファイルが壊れている可能性があります。

メッセージ	内容と対処方法
Non-Supported	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については、の35ページ「第8章 パソコンと接続する」をご覧ください。
Switched To Internal Battery	電源供給がUSBバスパワーから内部電池に切り替わりました。
Write Timeout	SDカードへの書き込みが間に合いませんでした。ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
No Rec Channels Selected	録音チャンネルが選択されていません(全てオフになっています)。
HDMI CONNECTED LOCK to HDMI.	HDMIが接続されました。クロックマスターがHDMIに変わります。
HDMI DISCONNECTED LOCK to INTERNAL	HDMIが切断されました。クロックマスターがインターナルに変わります。
-HDMI CONNECTED-Mismatch Audio Clock. Change to **kHz?	HDMIが接続されました。Fsが違います変更しますか？
Fs Mismatch LOCK to INTERNAL	Fsが変更されました。クロックマスターがインターナルに変わります。
Fs Match LOCK to HDMI.	Fsが変更されました。クロックマスターがHDMIに変わります。
Can't Save Data	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れ直してください。電源を切ることができない場合は、電池や別売の専用ACアダプター(TASCAM PS-P515U)を取り外す、またはUSBバスパワー供給時はUSBケーブルを外してください。これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。
Device Error	
File Error	
Not Continued	
Player Error	
Remote Cmd	
Remote Rx	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第12章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違えてセットしていませんか？
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の電源プラグおよびUSBコネクタがしっかりと差し込まれていますか？
- USBバスパワー接続しているときに、USBケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- USBバスパワー接続しているときに、USBハブを使用していませんか？

電源が自動的に切れてしまう。

オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？（→ 37ページ「電源のオートパワーセーブ機能の設定」）

- 本機は欧州待機時電力規制（ErP）に対応しているため、ACアダプター・電池使用時にかかわらずオートパワーセーブ機能が動作します。オートパワーセーブ機能を使用したくないときは「OFF」に設定してください（工場出荷時には「30分」に設定されています）。

本体で操作できない。

- HOLD / 0 / I スイッチが「HOLD」にセットされていませんか？
- USB接続（USB Connected）になっていませんか？

SDカードを認識しない。

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。

音が出ない。

- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出カレベル設定が最小になっていませんか？

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 入力レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数に達していませんか？

入力レベルが低い。

- 入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出カレベルが低くなっていませんか？

録音しようとする音が歪んで聴こえる。

- 入力レベルの設定が大きすぎませんか？

入力つまみを回してもPEAKインジケーターが消灯しない。

- 本機に入力する音源のボリュームを下げてください。

ファイルが消去できない。

- パソコンで読み取り専用を設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

パソコン上に本機のファイルが表示されない。

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中になっていませんか？
- USB接続（USB Connected）になっていますか？

録音したファイルにタイムコードが記録されていない。

- タイムコードの入力設定が、現在の入力先と一致しているか確認してください。（→ 28ページ「タイムコードを入力し、録音開始時間をファイルに記録する」）
- 本機とタイムコードを入力する外部機器が、BNCケーブルできちんと接続されていますか？

カメラの音声と本機で録音時間がずれてしまう。

- 本機とカメラがHDMIケーブルできちんと接続されていますか？

第13章 仕様

定格

記録メディア

SDカード (64MB ~ 2GB)
SDHCカード (4GB ~ 32GB)
SDXCカード (48GB ~ 128GB)

録音再生フォーマット

WAV : 44.1k/48k/96k/192kHz, 16/24ビット
BWF : 44.1k/48k/96k/192kHz, 16/24ビット

入力チャンネル数

最大4チャンネル (44.1k/48k/96kHz)
最大2チャンネル (192kHz)

録音トラック数

最大6トラック (44.1k/48k/96kHz)
最大2トラック (192kHz)

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

IN 1端子 / IN 2端子 / IN 3端子 / IN 4端子 (XLRのみファントム電源対応)

コネクター :
XLR-3-31
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)
φ6.3mm (1/4") TRS標準ジャック
(Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

入力ゲイン : "LOW" / "MID" / "HI" / "HI+" 時
入力インピーダンス : 2kΩ
ファントム電源 : 48V±4V (10mA/CH) or
24V±4V (10mA/CH)

最大入力レベル : +4dBu
最小入力レベル : -72dBu
マイク入力ゲイン (TRIM MAX時)
LOW : +20dB
MID : +40dB
HI : +52dB
HI+ : +64dB

入力ゲイン : "LINE" 時
入力インピーダンス : 10kΩ以上
基準入力レベル : +4dBu
最大入力レベル : +24dBu

EXT IN 1/2端子 (プラグインパワー対応)

コネクター : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
入力インピーダンス : 10kΩ
最大入力レベル : +10dBV
最小入力レベル : -50dBV
マイク入力ゲイン (TRIM MAX時)
LOW : +3dB
MID : +11dB
HI : +26dB
HI+ : +38dB

IN端子

コネクター : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
入力インピーダンス : 10kΩ
基準入力レベル : -10dBV
最大入力レベル : +6dBV

PHONES端子

コネクター : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
最大出力 : 50mW + 50mW

OUT端子

コネクター : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
出力インピーダンス : 200Ω
基準出力レベル : -44dBV
最大出力レベル : +6dBV

注)

最大入力レベル : 入力つまみを調整し、デジタルフルスケール (0dBFS) 信号を歪まずに入力できるレベル
最小入力レベル : 入力つまみを調整し、-20dBFSの信号を入力できるレベル

LINE OUT端子

コネクター : φ3.5mm (1/8") ステレオミニジャック
出力インピーダンス : 200Ω
基準出力レベル : -14dBV
最大出力レベル : +6dBV

コントロール入出力定格

HDMI IN / OUT端子

コネクター : Type A レセプタクル

USB端子

コネクター : Micro-B タイプ
フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED マスストレージクラス

TIMECODE IN端子

コネクター : BNCコネクター
信号電圧振幅 : 0.5 ~ 5Vp-p
入力インピーダンス : 10kΩ
フォーマット : SMPTE 12M-1999準拠

REMOTE端子

コネクター : φ2.5mm TRSジャック

オーディオ性能

周波数特性

20Hz-20kHz +0.5/-1dB
(LINE IN to LINE OUT, Fs48kHz, JEITA)
20Hz-40kHz +0.5/-1dB
(LINE IN to LINE OUT, Fs96kHz, JEITA)
20Hz-80kHz +0.5/-5dB
(LINE IN to LINE OUT, Fs192kHz, JEITA)

歪率

0.007%以下
(MIC IN to LINE OUT, -10dBu入力, 1kHz,
Fs44.1k/48k/96k/192kHz, JEITA)

S/N比

100dB以上
(LINE IN or MIC IN to LINE OUT,
Fs44.1k/48k/96k/192kHz, JEITA)

等価入力雑音

-124dBu以下
注) JEITA : JEITA CP-2150準拠

一般

電源

単3形電池4本
(アルカリ乾電池、ニッケル水素電池またはリチウム乾電池)
専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U、別売)
専用外付けバッテリーパック (TASCAM BP-6AA、別売)

消費電力

6.5W (最大時)

消費電流 (USBバスパワー)

1.3A (最大時)

電池持続時間 (連続使用時)

● アルカリ乾電池 (EVOLTA) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約3時間45分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約2時間
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約1時間30分

● ニッケル水素電池 (eneloop) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約4時間
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約2時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約2時間

● リチウム乾電池 (Energizer ULTIMATE LITHIUM) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約7時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約6時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約3時間30分

TASCAM BP-6AA (別売) 使用時電池持続時間 (連続使用時)

● アルカリ乾電池 (EVOLTA) + BP-6AA (EVOLTA) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約9時間
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約6時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約3時間45分

● ニッケル水素電池 (eneloop) + BP-6AA (EVOLTA) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約9時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約7時間
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約4時間

第13章 仕様

- リチウム乾電池 (Energizer ULTIMATE LITHIUM)
+ BP-6AA (EVOLTA) 使用時

使用条件	持続時間
1/2ch未使用、3/4ch内蔵マイク使用 ファントム電源未使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約12時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI未接続 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約7時間30分
1/2ch使用、3/4ch未使用 ファントム電源3mA x 2ch使用 HDMI入力接続 (1080/60i) 2ch WAV / 48kHz、16bitで録音	約5時間30分

メモ

ファントム電源を使用時には、ご使用になるマイクにより持続時間が短くなる場合があります。

外形寸法

169 x 57.3 x 113.5mm

(幅 x 高さ x 奥行き、上部アダプター取り付け状態)

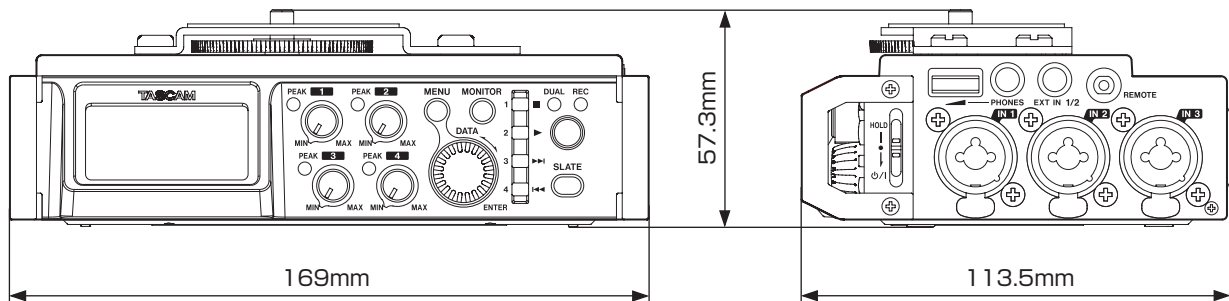
質量

654g / 561g (電池を含む / 電池を含まず)

動作温度

0 ~ 40°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<http://tascam.jp/>